

授 業 要 綱

2022 年度（令和 4 年度）

作業療法学科 夜間部

専門学校 社会医学技術学院

作業療法学科 夜間部

2022 年度（令和 4 年度）

目次

教育理念・教育目標・3つのポリシー

教育理念・教育目標	・・・	1
・3つのポリシー		

1 年 生

《基礎分野》

基礎力養成講座	・・・	2
人間発達学	・・・	3
医療コミュニケーション論	・・・	4

《専門基礎分野》

解剖学Ⅰa	・・・	5～6
解剖学Ⅰb	・・・	7～8
解剖学Ⅱ	・・・	9～10
生理学Ⅰa	・・・	11
生理学Ⅰb	・・・	12
生理学Ⅱa	・・・	13
生理学Ⅱb	・・・	14
運動学Ⅰa	・・・	15
運動学Ⅰb	・・・	16
臨床心理学	・・・	17
リハビリテーション概論	・・・	18

《専門分野》

作業療法概論	・・・	19
基礎作業療法学	・・・	20
基礎作業学演習Ⅰ	・・・	21
臨床見学実習	・・・	22

2 年 生

《基礎分野》

情報社会と情報リテラシー	・・・	23
--------------	-----	----

《専門基礎分野》

運動学Ⅱ	・・・	24
運動学演習	・・・	25
病理学概論	・・・	26
臨床神経学	・・・	27～28
整形外科学	・・・	29
臨床内科学Ⅰ（内科学）	・・・	30
臨床内科学Ⅱ	・・・	31
（老年医学・小児科学）		
リハビリテーション医学	・・・	32
精神医学概論		33

《専門分野》

基礎作業学演習Ⅱ	・・・	34
作業療法評価学総論	・・・	35
身体系作業療法評価学	・・・	36
身体系作業療法評価学演習	・・・	37～38
発達系作業療法評価学	・・・	39
精神神経系作業療法評価学	・・・	40
日常生活評価学	・・・	41
地域作業療法学Ⅰ	・・・	42
臨床実習Ⅰ	・・・	43

3 年 生

《基礎分野》

作業療法研究法 . . . 44

《専門基礎分野》

疾病管理論 . . . 45

《専門分野》

基礎作業学演習Ⅲ . . . 46

職業関連活動評価学 . . . 47

作業療法治療学特論 . . . 48

身体系作業治療学 . . . 49～50

身体系作業治療学演習 . . . 51

精神神経系作業治療学 . . . 52～53

精神神経系作業治療学演習 . . . 54

発達系作業治療学 . . . 54～56

発達系作業治療学演習 . . . 57

高齢期作業治療学 . . . 58～59

高次脳機能作業療法学 . . . 60

日常生活作業治療学 . . . 61

生活環境支援作業療法学 . . . 62

生活環境支援作業療法学演習 . . . 63

臨床実習Ⅱ－A . . . 64

臨床実習Ⅱ－B . . . 65

4 年 生

《基礎分野》

作業療法研究法Ⅱ . . . 66

作業療法研究法演習 . . . 67

行動科学 . . . 68

《専門分野》

社会福祉学 . . . 69

臨床実習Ⅲ－A . . . 70

臨床実習Ⅲ－B . . . 71

臨床実習Ⅲ－C . . . 72

★ (十志テ育者修人か(主四二) 一せり条を可テ上) ★

《教育理念》

本校は、人により添い、生きることを支えるために、専門的知識及び技術を習得するとともに、深い人間愛と高い人間性を涵養し、社会に貢献する理学療法士・作業療法士を育てます。

《教育目標》

1. 人の思いや痛み、苦しみや喜びを共感できる豊かな人間性の育成
2. 多職種と連携して自己の役割を果たせるコミュニケーション能力の育成
3. 人が抱える問題を論理的・創造的に解決できる思考力の育成
4. 科学的根拠に基づいた確かな専門知識・技術の育成
5. 専門職として生涯にわたり学習し、研鑽し続ける意欲の育成

《3つのポリシー》

・アドミッションポリシー（このような人をもとめています）

自分の経験を活かし理学療法士・作業療法士として働く意志を表明し、以下を満たす人

- 1) 情熱を持ち、困難な状況にある人々を積極的に支援しようとする人
- 2) 肯定的な人間観を持ち、人格を尊重できる人
- 3) 論理的な思考ができ学習に熱意がある人

・カリキュラムポリシー（このような教育を行います）

教育目標を達成するために、成長する基礎力ー深く考える力・共感する力・科学する力ーを育む教育

- 1) 個々人の能力に適した方法で提供する、学生中心の教育
- 2) 医療や地域、また対象となる人の生活を考慮した幅広いリハビリテーション分野の教育
- 3) 他（多）職種や、対象となる人に関わる人々と連携するために必要な教育

★ ディプロマポリシー（このような人材を育てます） ★

リハビリテーションの理念のもと、対象となる人は生活者であることを理解し適切なサービスを提供できる人材

- 1) 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人…DP1
- 2) 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人…DP2
- 3) 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人…DP3
- 4) 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人…DP4

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	基礎力養成講座				
担当者氏名	兵頭 洋子、河野 達哉、照井 林陽、木下 輝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GI0)》

医療福祉現場で働くために基本的な社会人基礎力を修得することを目的とする。具体的には傾聴力、発信力、自己表現力、実行力、規律性、想像力などについて求められる能力を習得する。また、学業の基本となる学びの技法についても習得する。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

適宜紹介する。

《目標行動(SB0)》

1. スタディスキル（ライティング・リーディング・プレゼンテーション・グループワーク）を習得できる。
2. 自分に合った学習方法を見つけ、学習計画を立てることができる。
3. 学内リソースを活用できる。
4. ビジネスマナー（挨拶の作法・メールの書き方・電話のかけ方・手紙の書き方・報告連絡相談）を習得できる。

《学生の留意点》

勉強資材の使い方や勉強方法、マナーなど、専門職を目指すにあたり必要な基礎的スキルを身につけていく必要がある。確かなスキルを積み上げていくために、当科目で学んだ方法を意識的に実践していくようにしてください。
この科目はグループワークを中心に進めていきます。

《成績評価の方法》

課題（ワークシート、レポート）85%
プレゼンテーション 15%で総合的に評価する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験から基礎的スキルの習得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション (兵頭)	オリエンテーション・Google Form（課題提出）について 自己紹介・他己紹介、作業療法士になる為の目標設定
2	基礎力テスト (兵頭)	基礎力テスト
3	学習方法・読む力 (木下)	学習方法、学習の深め方、自身の学習方法の特徴、積み残してきた リーディングスキルを認識する、日常的に読む文章の読み取り、要約の方法
4	記録する力① (照井)	基礎的な文章の書き方について、Word（ドキュメント）による文章の書き方 ノートテイキングについて
5	記録する力② (木下)	Excel（スプレッドシート）による図表・グラフの作成
6	実習に必要な準備① (河野達哉)	職業倫理 ～職業人として 専門職として～ 理学療法士・作業療法士として必要な基礎力、目標設定
7	実習に必要な準備② (兵頭)	ビジネスマナー（言葉遣い、メール・手紙の書き方、SNSのルール） 専門職としてどのような立ち居振る舞いが求められているかを考える
8	実習に必要な準備③ (兵頭)	報告・連絡・相談について 困ったときにどうすれば良いか、問題解決について考える
9	実習に必要な準備④ (外来講師)	病院・施設で実習するという事 ～コロナ禍での感染対策と専門職としての心構え～
10	プレゼンテーション① (木下)	調べる力：テーマを決めて調べる (解剖学、生理学、運動学の知識から人間の身体について素朴な疑問の掲げ調べる)
11	プレゼンテーション② (木下)	発信する力：プレゼンテーション 発表
12	セルフケア① (照井)	自己理解とストレスマネジメント
13	セルフケア② (兵頭)	医療従事者として自己の生活習慣を考える アドバイスを受ける
14	ハラスメント対策 (照井)	ハラスメント対策 ～自分が加害者・被害者にならないために～
15	まとめ (兵頭)	理学療法士・作業療法士として必要な基礎力、目標設定を振り返る、現在の達成度、修正

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	人間発達学				
担当者氏名	松本 実祐				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

対象者の発達過程を考慮しながら対応できるようになるために、人の生得的な能力を知り、また代表的な領域ごとの各発達段階における特徴を学ぶ。

《テキスト》

授業の中で資料を配布します

《参考図書》

授業の中で資料を配布します

《目標行動(SBO)》

1. 人の発達段階の特徴について各領域に分け説明できる
2. 発達障害について説明できる
3. 各ライフステージにおける発達の特徴について説明できる

《学生の留意点》

積極的に授業に参加してください。

《成績評価の方法》

期末試験 100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、臨床心理士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 生涯発達	オリエンテーション 生涯発達
2	発達課題	発達課題
3	運動の発達	運動の発達
4	言語・感情	言語・感情
5	知覚・記憶	知覚・記憶
6	学習	学習
7	認知 ピアジェの認知発達理論	認知 ピアジェの認知発達理論
8	発達障害①	発達障害①
9	発達障害②	発達障害②
10	発達を見立てる	発達を見立てる
11	段階理論	フロイトの心理学的発達段階・マズローの欲求階層説・エリクソンの心理社会的発達段階理論
12	愛着	愛着
13	社会で生きるということ ①	乳幼児期～児童・青年期
14	社会で生きるということ ②	壮年・中年期
15	社会で生きるということ ③	老年期

科目名	医療コミュニケーション論				
担当者氏名	兵頭 洋子				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

作業療法を実施するうえで対象者や家族、関係職員と適切なコミュニケーションを図るために、基本的な人間関係の在り方、関係構築の方法、コミュニケーション方法を習得する。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

山口美和：『PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第2版』。医学書院。2016，諏訪茂樹：『対人援助とコミュニケーション 主体的に学び、感性を磨く』。中央法規。2001，山根寛編集：『伝えることの障害とアプローチ』。三輪書店。2006，香山明美編集：『作業療法の面接技術』。三輪書店。2009 他

《目標行動(SBO)》

1. コミュニケーションとは何か、説明できる
2. 自分の長所・短所を述べるができる
3. 人間関係とは何かを説明できる
4. 社会人のマナーとしてのコミュニケーションについて説明し、実践できる
5. 医療・福祉現場において必要なコミュニケーションが何かを説明できる

《成績評価の方法》

期末試験と課題で総合的に評価する。

期末試験（筆記試験）50%。

課題50%。提出期限厳守。理由なく守れない場合、点数とならないので注意。

《学生の留意点》

人を援助するとき、またそのために協同で仕事をするときには、活動を円滑に進ませるために人間関係が上手く築けるかどうか、またコミュニケーション力が重要となってきます。この授業では、それらについて体験を通して学びます。作業療法の基礎となる科目であるので、それを意識して学習してください。また事前学習を設けますので準備してから参加してください。

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、作業療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	対人援助、コミュニケーションとは（兵頭）
2	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーション効果：メッセージの影響、挨拶、敬語、嫌われる言葉・喜ばれる言葉（兵頭）
3	コミュニケーションの基礎②	トータルコミュニケーション：言語・準言語・非言語（兵頭）
4	コミュニケーションの基礎③	アクティブリスニング：『聞く』と『聴く』（河野崇）
5	コミュニケーションの基礎④	演習①クラスメイトのことに知ろう（河野崇）
6	自己分析	自分を知ろう（河野達哉）
7	人間関係①	人間関係とは（河野達哉）
8	人間関係②	演習②人間関係を築くために必要なスキル（河野達哉）
9	医療・福祉現場におけるコミュニケーション①	医療・福祉現場において必要なコミュニケーション（中村）
10	医療・福祉現場におけるコミュニケーション②	他職種とのコミュニケーション（中村）
11	医療・福祉現場におけるコミュニケーション③	演習③他職種からの情報収集（中村）
12	社会人のマナーとしてのコミュニケーション①	社会人のマナーとしてのコミュニケーションとは（外来）
13	社会人のマナーとしてのコミュニケーション②	演習④場面に応じたマナー（外来）
14	医療・福祉現場におけるコミュニケーション④	作業療法における面接とは①：目的と種類、患者とのコミュニケーション（照井）
15	医療・福祉現場におけるコミュニケーション⑤	作業療法における面接とは②：家族との面接（兵頭）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GI0)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節韧带学、筋学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』，文光堂，2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』，廣川書店，

2013年，〔準教科書扱い〕

横地千仞：『カラーアトラス 人体ー解剖と機能』，医学書院，2013年，

野村巖：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』，医学書院，2020年，

《目標行動(SBO)》

1. 全身の骨の種類と構造，発生と成長について説明できる。
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる。
3. 筋の分類と作用，補助装置，上肢の筋について説明できる。

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	解剖学総論	解剖学の概要，解剖学用語
2	〃	解剖学の概要，解剖学用語
3	骨学総論	骨の種類と構造，骨の発生と成長
4	〃	骨の種類と構造，骨の発生と成長
5	骨学各論	体幹の骨格（脊柱）
6	〃	体幹の骨格（脊柱）
7	〃	体幹の骨格（胸郭）
8	〃	体幹の骨格（胸郭）
9	〃	上肢の骨格
10	〃	上肢の骨格
11	〃	下肢の骨格
12	〃	下肢の骨格
13	〃	頭蓋の骨格
14	〃	頭蓋の骨格
15	復習	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節靱帯学、筋学について学ぶ

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』、文光堂、2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。〔準教科書扱い〕
横地千仞：『カラーアトラス 人体一解剖と機能』、医学書院、2013年。
野村巖：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』、医学書院、2020年。

《目標行動(SBO)》

1. 全身の骨の種類と構造、発生と成長について説明できる
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる
3. 筋の分類と作用、補助装置、上肢の筋について説明できる

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	復習	復習
2	関節靱帯学総論	関節の一般構造と種類
3	〃	関節の一般構造と種類
4	関節靱帯学各論	体幹、上肢の関節
5	〃	体幹、上肢の関節
6	〃	下肢の関節
7	〃	下肢の関節
8	筋学総論	筋の分類と作用、筋の補助装置
9	〃	筋の分類と作用、筋の補助装置
10	筋学各論	頭頸部の筋
11	筋学各論	頭頸部の筋
12	〃	上肢帯の筋
13	〃	上肢帯の筋
14	〃	上肢の筋
15	〃	上肢の筋

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I b				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013〔準教科書扱い〕
横地千仞：『カラーアトラス 人体―解剖と機能』、医学書院、2013

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる

野村巖：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』、医学書院、2015

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	筋学各論	体幹筋
2	〃	体幹筋
3	〃	下肢帯の筋
4	〃	下肢帯の筋
5	〃	下肢の筋
6	〃	下肢の筋
7	内臓学総論	内臓の一般的構造と体内における配置
8	〃	内臓の一般的構造と体内における配置
9	内臓学各論	消化器系
10	〃	消化器系
11	〃	消化器付属腺
12	〃	消化器付属腺
13	〃	循環器系（心臓と血管）
14	〃	循環器系（心臓と血管）
15	〃	循環器系（リンパ系）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰb				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013〔準教科書扱い〕
横地千代：『カラーアトラス 人体―解剖と機能』、医学書院、2013

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる。
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる。

野村巖：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』、医学書院、2015

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	内臓学各論	循環器系（リンパ系）
2	〃	呼吸器系
3	〃	呼吸器系
4	〃	内分泌系
5	〃	内分泌系
6	〃	泌尿器系、男性生殖器系
7	〃	泌尿器系、男性生殖器系
8	〃	女性生殖器系
9	〃	女性生殖器系
10	〃	発生学
11	〃	発生学
12	〃	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
13	〃	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
14	〃	感覚器系（眼、耳）
15	〃	感覚器系（眼、耳）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱ				
担当者氏名	宮東 昭彦				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるとともに、より発展的な内容を持つ他科目の理解を助ける基礎的な概念を整理するため、神経系、脈管系について学ぶ。

《目標行動(SBO)》

1. 中枢神経系の基本構造と部位名を、主に断面像を用いて、機能と関連付けて説明できる
2. 中枢神経系の伝導路について説明できる
3. 脳神経と脊髄神経を列挙、走行経路と神経支配を説明できる

《成績評価の方法》

期末筆記試験 90%, 復習テスト 10%. 復習テストは、前週に予告の上、講義時間中に複数回実施する。再試験は、期末筆記試験の成績不振者を対象として行う。

《テキスト》

平田幸男 訳：『解剖学アトラス』原著第10版、文光堂。2012. ¥11,000.

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』。廣川書店。2013. ¥6,380.
野村 嶺 編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学』。医学書院。2020. ¥6,600.

《学生の留意点》

新しい概念や用語が非常に多いので、講義ごとの復習が重要。質問は電子メール [akudo@ks.kyorin-u.ac.jp] にて随時受け付ける。

《実務経験のある教員による科目》

・解剖学教室の外來講師による神経系、脈管系を講義形式で実施する。実務経験のある作業療法士（河野）により、神経系、脈管系の知識を整理する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経系序説（宮東）	神経系についての基礎知識 神経系とは、中枢神経と末梢神経、神経細胞と神経線維
2	神経系総論（宮東）	シナプスとニューロン系、脳の発生と構成、中枢神経系の基本構造
3	中枢神経系（宮東）	神経組織とグリア細胞、灰白質と白質、神経核と線維路について
4	中枢神経系（宮東）	脳室系・髄膜と脳脊髄液系、脳の方向と断面
5	中枢神経系（宮東）	大脳の構造、大脳皮質（新皮質、古皮質、原皮質）
6	中枢神経系（宮東）	大脳新皮質の機能局在：知覚領・運動領・連合中枢
7	中枢神経系（宮東）	大脳基底核と髄質 線条体と内包
8	中枢神経系（宮東）	間脳の構造、松果体、視床と視床核、視床下部、下垂体
9	中枢神経系（宮東）	脳幹（中脳、橋、延髄）の構造と伝導路、網様体
10	中枢神経系、伝導路（宮東）	脊髄の構造と機能局在、伝導路
11	中枢神経系、伝導路（宮東）	小脳 構造、機能による区分、伝導路
12	中枢神経系、伝導路（宮東）	運動性の伝導路：錐体路ほかの脊髄下行路と運動を調節する伝導路
13	中枢神経系、伝導路（宮東）	感覚性の伝導路：体性感覚の種類と伝導路
14	末梢神経系（宮東）	脳幹と脳神経、脳神経1～2（嗅神経、視神経）
15	末梢神経系（宮東）	脳神経3, 4, 6（眼筋を支配する脳神経）、視覚反射

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱ				
担当者氏名	宮東 昭彦				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるとともに、より発展的な内容を持つ他科目の理解を助ける基礎的な概念を整理するため、神経系、脈管系について学ぶ。

《目標行動(SBO)》

3. 脳神経と脊髄神経を列挙、走行経路と神経支配を説明できる。
4. 心臓の基本構造と位置、機能の概要について説明できる。
5. 全身の動脈と静脈の走行と血液供給、リンパ管の走行の概要を説明できる。
6. 作業療法に必要な神経系、脈管系の知識を説明できる。

《成績評価の方法》

期末筆記試験 90%、復習テスト 10%。復習テストは、前週に予告の上、講義時間中に複数回実施する。再試験は、期末筆記試験の成績不振者を対象として行う。

《テキスト》

平田幸男 訳：『解剖学アトラス』原著第10版、文光堂、2012。¥11,000。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013。¥6,380。
野村 巖 編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学』、医学書院、2020。¥6,600。

《学生の留意点》

新しい概念や用語が非常に多いので、講義ごとの復習が重要。質問は電子メール [akudo@ks.kyorin-u.ac.jp] にて随時受け付ける。

《実務経験のある教員による科目》

・解剖学教室の外来講師による神経系、脈管系を講義形式で実施する。実務経験のある作業療法士（河野）により、神経系、脈管系の知識を整理する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	末梢神経系（宮東）	脳神経5,7（顔面の感覚と運動の制御）
2	末梢神経系（宮東）	脳神経8,9（内耳神経、舌咽神経）
3	末梢神経系（宮東）	脳神経10～12（迷走神経、副神経、舌下神経）
4	末梢神経系（宮東）	脊髄と脊髄神経、デルマトーム、脊髄神経後枝、頸神経叢
5	末梢神経系（宮東）	腕神経叢と上肢の神経
6	末梢神経系（宮東）	腰神経叢、仙骨神経叢と下肢の神経
7	末梢神経系（宮東）	自律神経系 交感神経と副交感神経
8	脈管系総論（宮東）	循環器系概論 血液循環とリンパ管
9	脈管系（宮東）	心臓 心筋、弁、血管、刺激伝導系、心臓の位置
10	脈管系（宮東）	脈管系総論 血管の構造、動脈、静脈、毛細血管
11	脈管系（宮東）	大動脈、大静脈とその直接枝
12	脈管系（宮東）	局所解剖学からみた血管 頭頸部、上肢
13	脈管系（宮東）	局所解剖学からみた血管 体幹、下肢
14	脈管系（宮東）	脳の血管系、腹腔内臓と門脈系
15	脈管系（宮東）	胎生期の血液循環、リンパ系の概要、作業療法に必要な解剖学（聴診や血管・神経触察など）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 Ia				
担当者氏名	渡辺 圭一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるため、「膜電位の発生機序」、「神経細胞の働き」、「体内での情報伝達機能」、「身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）及び末梢神経と効果器（筋）の働き」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』，文光堂，2017

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 神経筋機能について電気特性と物質特性から説明できる。
2. 筋の機能について電気特性と物質特性から説明できる。
3. 身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）について説明できる。
4. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について関係づけることができる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，実習レポート30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概論	生理学概論，神経生理学概論
2	細胞機能の基礎	細胞の環境，構造・構造・機能調節
3	細胞機能の基礎②	細胞膜を通過する物質移動
4	細胞機能の基礎③	細胞膜を通過する物質移動
5	活動電位，イオンチャネル	膜電位，興奮発生と膜電流，イオンチャネルの機能と構造
6	神経の基本・興奮伝導について	神経線維の構造，跳躍伝導，興奮伝導の特徴（興奮伝導の3原則），神経線維の種類
7	骨格筋について	筋の基本的機能，筋節（サルコメア），筋フィラメント（アクチン，ミオシンについて）調節タンパク質（トロポニン，トロポミオシンについて）
8	骨格筋について（その2）	筋小胞体とT管（横行小管），Ca ²⁺ による筋収縮の開始（筋の収縮），等尺性収縮と等張性収縮，筋収縮の基本の型，神経支配比，筋収縮のエネルギー
9	興奮の伝達と抑制	興奮の伝達と抑制，シナプスについて，神経筋伝達，神経筋接合部の伝達
10	自律神経系①	自律神経系との構成と作用，自律神経系の受容体①
11	自律神経系②	自律神経系の受容体②
12	運動系①	脊髄について，脳幹について
13	運動系②	小脳について，大脳基底核について①
14	運動系③	大脳基底核について②，
15	運動系④	運動系①～③までまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I b				
担当者氏名	渡辺 圭一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているのかについて理解を深めるために「感覚機能および脳の統合機能が関与する生命機能」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』，文光堂，2017年。

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 感覚機能の点からヒトの生命機能を説明できる。
2. 脳の統合機能の点から人の生命機能を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	感覚生理学総論	感覚系神経システムの理解
2	体性感覚①	感覚の強度，体性感覚と受容器，体性感覚の伝導路・中継核①
3	体性感覚②	体性感覚の伝導路・中継核②，大脳皮質の体性感覚野，痛覚，痒み
4	味覚、嗅覚	味覚，（味覚系、満腹、摂食中枢、嚥下）嗅覚
5	聴覚	音の性質と聴力，伝音機構，内耳の音受容，聴覚の中枢
6	前庭感覚	前庭器官の構造と機能，前庭系の神経回路
7	視覚①	眼球の光学系，網膜の光受容，視覚の中枢神経機序
8	視覚②	感覚としての視覚，眼球運動，演習
9	感覚器	感覚器（1～8回）のまとめ
10	脳の統合機能①	大脳皮質の構造と機能
11	脳の統合機能②	大脳辺縁系と視床下部
12	脳の統合機能③	脳の情動，行動を調節する伝達物質，脳波①
13	脳の統合機能④	脳波②，演習（脳波について），覚醒と睡眠
14	脳の統合機能⑤	学習と記憶
15	脳の統合機能⑥	脳の統合機能（10～14回）のまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱa				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』，文光堂，2017

《参考図書》

佐藤昭大他：『人体の構造と機能』，医歯薬出版，2015

《目標行動(SBO)》

1. 体液、血液の役割と機序を説明できる。□ 2. 心臓、血管の循環系の役割と機序を説明できる。□ 3. 生体防御機構免疫系の役割と機序を説明できる。□ 4. 呼吸・酸塩基平衡の役割と機序を説明できる。□ 5. 体温調節と生体リズムの役割と機序を説明できる。□

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。臨床医学に貢献できるように、高度な医学知識、深い考察力と高い生命倫理観を目指しましょう。

《成績評価の方法》

期末試験100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における獣医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	体液	生命現象の本態，ホメオスタシス，体液の役割，体液の組成，ミネラルの働き
2	体液	水分の生理機能，体液量の調節，脱水，浮腫，カルシウムの吸収と代謝
3	血液	血液の成分と機能，血液の物理化学的特性，血液の成分，造血と造血因子
4	血液	赤血球の形状と機能，赤血球の新生と破壊，ヘモグロビンの働き，貧血
5	血液	白血球，血小板，血漿の形状と機能，血液凝固作用，血小板血栓，二次血液凝固
6	血液	ABO式血液型，RH式血液型，赤血球の凝集反応，凝集原（抗原）凝集素（抗体）
7	免疫	非特異的防御機構，特異的防御機構，免疫機構，リンパの働き，アレルギー
8	循環	体循環，肺循環，心臓の構造と機能，心筋の特性，刺激伝導系
9	心臓	心周期，心音，心拍数の調節，心臓の神経支配，心筋の電気現象と心電図
10	血管	動脈・静脈・毛細血管の特徴，血管の自律神経，冠循環，脳循環，腹腔内循環
11	血管	血圧の調節要因，局所性調節，ホルモン調節，リンパ管の構造と機能
12	呼吸	換気の仕組み，気道，肺の構造と機能，呼吸筋と呼吸運動，肺胞換気量
13	呼吸	肺におけるガス交換，酸素・二酸化炭素の運搬，呼吸による体液の酸塩基平衡
14	呼吸	呼吸に影響を与える因子，呼吸調節作用，呼吸中枢，特殊環境の呼吸への影響
15	体温	体温の調節，体熱の産生，基礎代謝量，体熱の放散，体温調節中枢，日内変動

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱb				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』，文光堂，2017

《参考図書》

佐藤昭大他：『人体の構造と機能』，医歯薬出版，2015

《目標行動(SBO)》

1. 消化・吸収の役割とその機序を説明できる。
2. 栄養とエネルギーの役割とその機序を説明できる。
3. 泌尿器系の役割とその機序を説明できる。
4. 内分泌の役割とその機序を説明できる。
5. 生殖系系の役割とその機序を説明できる。
6. 成長と老化の生理作用とその機序を説明できる。

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。

臨床医学に貢献できるように、高度な医学知識、深い考察力と高い生命倫理観を目指しましょう。□

《成績評価の方法》

筆記試験（100％）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における獣医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	復習	前期講義内容の再確認
2	消化	口腔内消化，咀嚼・嚥下，唾液による消化，胃内消化，消化液の分泌調節作用
3	消化	小腸の構造と機能，小腸壁の構造，小腸の運動，小腸における消化
4	吸収	栄養素の分解と吸収，肝臓の構造と機能，脾臓の構造と機能，胆嚢・胆道の機能
5	排便	大腸の構造と機能，大腸の運動と分泌，胃大腸反射，排便中枢，肛門括約筋の作用
6	代謝	物質代謝，炭水化物代謝，脂質代謝，タンパク代謝，核酸代謝，ビタミン代謝
7	腎臓	腎臓の構造と機能，ネフロン構造，糸球体濾過，尿細管の働き，再吸収と分泌
8	腎臓	腎機能の測定，腎血流量，腎漿流量と糸球体濾過量，腎クリアランス
9	排尿	尿管・膀胱・尿道の構造と機能，膀胱と尿道の神経支配，蓄尿，排尿反射
10	内分泌	ホルモンの化学的性質，ホルモンの受容器，ホルモンの機序，ホルモンの分泌調整
11	内分泌	視床下部ホルモン，下垂体前葉ホルモン，下垂体中葉ホルモン，下垂体後葉ホルモン
12	内分泌	甲状腺ホルモン，副甲状腺ホルモン，膵臓ホルモン，副腎皮質・髄質ホルモン
13	生殖	排卵，月経，妊娠のホルモン，精巣・精巣上体の構造と機能，勃起，射精
14	老化	細胞の寿命と再生，生理的老化の特徴，身体機能の加齢変化，脳死，QOL，死の三徴候
15	復習	後期講義内容の再確認

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学 I a				
担当者氏名	兵頭 洋子、河野 崇、木下 輝				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では健康な人の身体のおしくみに関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つため、作業療法の基礎技術として主要な骨指標や筋について触知する能力を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の評価・治療が行えるようになるために、人体運動に関する基礎知識を習得する。

《テキスト》

中村隆一、他著：『基礎運動学 第6版 補訂』，医歯薬出版株式会社，2012

《参考図書》

授業内ご紹介いたします。

《目標行動(SBO)》

1. 人体運動を表記できる
2. 関節の種類・構造を図示し、各関節運動を説明できる
3. 筋収縮様式とその具体例を説明できる
4. 人体運動を力学の視点を用いて説明できる

《学生の留意点》

作業療法評価や治療の基礎となる上肢・下肢および体幹の関節構造，運動と筋の活動について学習する。学生同士で実際に骨や筋の触診を行い，人体運動を体得する。予習・復習を前提とし，小テストで知識の定着を確認する。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）90%，小テスト10%を総合して評価する。

※但し，OD授業となった場合には小テストで評価する部分を課題で評価することもある。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し，その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	人体各部の名称	オリエンテーション，人体各部の名称
2	身体運動の捉え方①	人体運動を表現する①（姿勢・体位・肢位）
3	身体運動の捉え方②	〃 ②（運動面と運動軸）
4	関節運動の表現①	関節運動を説明する① ※小テスト1
5	関節運動の表現②	〃 ②
6	関節運動の表現③	〃 ③
7	運動器の構造と機能①	関節構造を理解する ※小テスト2
8	運動器の構造と機能②	筋収縮を体験し，説明する①
9	運動器の構造と機能③	筋収縮を体験し，説明する②（木下）
10	生体力学の基礎①	てこの原理と身体運動の関係を説明する ※小テスト3
11	生体力学の基礎②	筋力・重力・モーメントと身体運動の関係を説明する（木下）
12	生体力学の基礎③	仕事・エネルギーと身体運動の関係を説明する（木下）
13	触診のための筋の基礎知識①	筋の起始・停止，神経支配，作用を説明する（河野崇・木下） ※小テスト4
14	触診のための筋の基礎知識②	筋の起始・停止，神経支配，作用を説明する（河野崇・兵頭）
15	触診のための筋の基礎知識③	筋の起始・停止，神経支配，作用を説明する（河野崇・兵頭） ※小テスト5

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学 I b				
担当者氏名	兵頭 洋子、河野 崇				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では健康な人の身体のしくみに関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つため、作業療法の基礎技術として主要な骨指標や筋について触知する能力を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の評価・治療が行えるようになるために、人体運動に関する基礎知識、触診技能を習得する

《テキスト》

中村隆一、他著：『基礎運動学 第6版 補訂』，医歯薬出版株式会社，2012

《参考図書》

授業内ご紹介いたします。

《目標行動(SBO)》

1. 骨指標を触診できる
2. 主要な筋を触診できる
3. 主要な筋の解剖学的・運動学的要素（起始・停止・作用・神経支配）を説明できる
4. 各関節の機能や特徴を説明できる

《学生の留意点》

作業療法評価や治療の基礎となる上肢・下肢および体幹の関節構造、運動と筋の活動について学習する。
 学生同士で実際に骨や筋の触診を行い、人体運動を体得する。
 授業に当たってはワークシートでの予習・復習を前提とし、小テストで知識の定着を確認する。
 また、授業の進行に合わせて触診可能な服装で参加すること。

《成績評価の方法》

期末試験90%（筆記試験80%，実技試験10%），小テスト10%。

実技試験：触診テストとする。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	肩甲帯と肩関節の触診①	肩甲帯と肩関節の骨と筋の触診に必要な知識（ランドマーク・筋の走行・機能等）を理解する
2	肩甲帯と肩関節の触診②	肩甲帯と肩関節の骨と筋の触診を行う
3	肘関節と前腕の触診①	肘関節と前腕の骨と筋の触診に必要な知識（ランドマーク・筋の走行・機能等）を理解する ※小テスト1
4	肘関節と前腕の触診②	肘関節と前腕の骨と筋の触診を行う
5	手関節と手指の骨と筋の触診①	手関節と手指の骨と筋の触診に必要な知識（ランドマーク・筋の走行・機能等）を理解する ※小テスト2
6	手関節と手指の骨と筋の触診②	手関節と手指の骨と筋の触診を行う
7	骨盤と股関節の骨と筋の触診①	骨盤と股関節の骨と筋の触診に必要な知識（ランドマーク・筋の走行・機能等）を理解する ※小テスト3
8	骨盤と股関節の骨と筋の触診②	骨盤と股関節の骨と筋の触診を行う（兵頭）
9	膝関節・足関節の骨と筋の触診①	膝関節・足関節の骨と筋の触診に必要な知識（ランドマーク・筋の走行・機能等）を理解する ※小テスト4
10	膝関節・足関節の骨と筋の触診②	膝関節・足関節の骨と筋の触診を行う
11	脊柱と胸郭の骨と筋の触診①	脊柱と胸郭の骨と筋の触診に必要な知識（ランドマーク・筋の走行・機能等）を理解する ※小テスト5
12	脊柱と胸郭の骨と筋の触診②	脊柱と胸郭の骨と筋の触診を行う
13	頭頸部の骨と筋の触診	頭頸部の骨と筋の触診に必要な知識（ランドマーク・筋の走行・機能等）を理解する
14	触診まとめ	全身の骨と筋の触診について確認を行う
15	触診まとめ	全身の骨と筋の触診について確認を行う ※小テスト6

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	杉村 タ				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

対象者の心理的特徴や心的作用を考慮しながら実際場面で対応できるようになるために、臨床心理学の基本的理論、検査法、心理療法などを学ぶ。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方を説明できる。
2. 代表的な心理検査の種類を列举、その特徴と内容について説明し、実施できる。
3. 代表的な心理療法について列举し、その特徴と内容について説明できる。

《学生の留意点》

実際にさまざまな心理検査を実施したり、さまざまな心理療法の基礎を体験してもらったりします。
積極的な授業参加を期待します

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床心理士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方
2	心理アセスメント	面接法、行動観察法、心理検査法
3	心理検査法①	性格検査（質問紙法）
4	心理検査法②	性格検査（投影法）
5	心理検査法③	性格検査（作業検査法）
6	心理検査法④	知能検査（ウェクスラー式、ビネー式）
7	心理療法①	概論
8	心理療法②	精神分析療法
9	心理療法③	クライエント中心療法
10	心理療法④	行動療法、認知行動療法
11	心理療法⑤	自律訓練法
12	心理療法⑥	その他の心理療法
13	ライフサイクルと心理的問題	ライフサイクルと心理的問題、障害者・高齢者の心理、障害の受容、その他
14	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント
15	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション概論				
担当者氏名	関 勝、山田 千鶴子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 ○ DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーションに関する基礎的な知識を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーション専門職として治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

利用者の充実した生活を創造するセラピストとして、多職種と連携できるようになるために必要となる基礎的な知識と考え方を学ぶ

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. リハビリテーション歴史と理念を説明できる
2. リハビリテーションチームにおけるOTの役割を説明できる
3. 利用者の生活の質向上のために何が必要か具体的に考えられる
4. 多職種と連携するために必要な行動をとることができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験 50% 課題（レポート・ミニツツペーパー・自己評価） 50%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を、専門分野の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	本コースの目的・目標、内容 [小島 肇]
2	リハビリテーションの理念と社会医学技術学院	社会医学技術学院創設者の目指したリハビリテーションとは [山田千鶴子]
3	利用者中心のリハビリテーション1	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討 [山田千鶴子]
4	利用者中心のリハビリテーション2	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討 [山田千鶴子]
5	利用者中心のリハビリテーション3	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討 [山田千鶴子]
6	利用者中心のリハビリテーション4	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討 [山田千鶴子]
7	専門職に求められるもの	チームにおける理学療法士・作業療法士の役割と責任 [浅沼辰志]
8	障害体験1	利用者の生活を考える 障害体験1 [OT, PT]
9	障害体験2	利用者の生活を考える 障害体験2 [OT, PT]
10	リハビリテーションの歴史と理念	定義・対称・医療と介護の区分 [関 勝]
11	リハビリテーションチーム	専門職の役割とチームアプローチ [関 勝]
12	医学的リハビリテーションI	リハビリテーションにおける評価とその意義 [関 勝]
13	医学的リハビリテーションII	機能予後と短期・長期ゴール設定 [関 勝]
14	医学的リハビリテーションIII	病期別リハビリテーションと治療の基本概念 [関 勝]
15	地域リハビリテーション	医療と福祉の連携など [関 勝]

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	作業療法概論				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 ○ DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の仕事内容に関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の全体像を知るために、作業療法の基礎知識を学ぶ

《テキスト》

杉原素子編：『作業療法学概論（第1巻）』、協同医書出版社、2015

その他、適宜、資料を配付

《参考図書》

砂原茂一：『リハビリテーション』、岩波新書新、1980

秋元波留夫、他：『新・作業療法の源流』、三輪書店、1991

矢谷令子編：『作業療法』、協同医書出版社、2014

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法の定義（目的、対象、方法）から作業療法および作業療法士像について述べられる。
2. 我が国の作業療法の歴史の概要を述べられる
3. 世界の作業療法の歴史の概要を述べられる
4. 作業療法士の活躍の場と必要な連携について述べられる
5. 作業療法の各領域の対象者と実践過程の概要を説明できる

《学生の留意点》

この授業は作業療法というものが面白くて、奥が深いということを理解し、今後の学習を進めていく上での弾みとして、あるいは今後の学習の地図として利用するために、作業療法全体を概説する内容である。専門分野・専門基礎分野の授業が多い中、唯一、作業療法の専門分野としての授業である。自分の将来を見失わないようにしっかりと取り組むこと。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80%、グループワークによる評価10%、個人のレポート提出10%で総合的に評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法の基礎知識を学ぶという観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	作業療法のイメージを話し合う
2	作業療法の歴史	日本の草創期の作業療法を知る
3	作業療法の歴史	世界の作業療法士の歴史を知る
4	協業と連携	作業療法士が活躍できる場と協業・連携を知る
5	各論	老年期障害領域の作業療法①
6	〃	老年期障害領域の作業療法②
7	〃	精神領域の作業療法①
8	〃	精神領域の作業療法②
9	〃	身体障害領域の作業療法①
10	〃	身体障害領域の作業療法②
11	地域	地域で活躍する作業療法
12	職業関連	職業関連領域の作業療法
13	発達	発達障害領域作業療法①
14	発達	発達障害領域作業療法②
15	まとめ	作業療法のイメージをまとめる

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業療法学				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

作業を治療的に活用できるようになるために必要な知識を習得する。

《テキスト》

山根寛著 ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 2019年

《参考図書》

澤田雄二編：『作業療法学全書 改訂第3版 基礎作業学』協同医書出版社、2009

二木淑子、能登真一編：『標準作業療法学 作業療法学概論 第3版』医学書院、2016

吉川ひろみ：『「作業」ってなんだろう』医歯薬出版株式会社、2008

《目標行動(SBO)》

1. 様々な作業の定義・種類を説明できる
2. 作業を用いる視点と分析の視点を説明できる
3. 各領域における作業分析・応用の例を列举できる

《学生の留意点》

「作業」について学び、理論・モデルの概要について知り、各領域において作業をどのように治療で応用するかを学びます。また、作業の分析の仕方について演習します。

《成績評価の方法》

筆記試験60%

課題(ワークシート)40%

双方の成績を総合的に合算して判断する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、ひとと作業という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	作業の概念	「作業」とは
2	作業利用の歴史	ひとと作業との関係 作業利用の歴史
3	作業の特性	作業の特性とは 個人的な意味
4	作業の種類	作業と生活機能
5	作業の要素	作業を分析する 目的 種類 方法について
6	作業の要素	包括的作業分析とは
7	作業の要素	限定的作業分析とは①
8	作業の要素	限定的作業分析とは②
9	作業の要素	限定的作業分析とは③
10	作業の選択	作業選択の条件
11	作業とかかわり	作業を媒介としたかかわり
12	治療への応用	発達障害領域における治療への応用
13	治療への応用	身体障害領域における治療への応用
14	治療への応用	高齢期障害領域における治療への応用
15	治療への応用	精神障害領域における治療への応用

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習 I				
担当者氏名	木下 輝				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

作業療法において、代表的な作業活動を用いるための基本的知識を理解する。

《テキスト》

古川宏『つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版』。医歯薬出版株式会社。2018

《参考図書》

日本作業療法士協会『作業—その治療と応用』協同医書出版社。2008
浅沼辰志他『基礎作業学実習ガイド 作業活動のポイントを学ぶ』協同医書出版社。2008

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法における代表的な作業活動（手工芸系）の全工程を実施できる
2. 作業分析の基礎となる項目を列挙できる
3. 作業分析の基礎となる項目を説明できる
4. 作業活動の治療的要素の例を列挙できる

《学生の留意点》

本授業は、作業療法の特徴の一つである「作業を用いる」ことの基礎となる。「作業を用いて療法と成す」ための基礎として、各作業体験へ積極的な取り組みを望む。
実際に手工芸系の作業活動を実施するため、動きやすく汚れても構わない服装が望ましい。

《成績評価の方法》

作品課題60%（革細工；規定順守40%，期限提出20%）
レポート課題40%（内容30%，期限提出10%）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	作業体験①	コースオリエンテーション，革細工の作品決定を経験し，簡易作業分析を行う。
2	作業体験②	革細工の裁断を経験し，簡易作業分析を行う。
3	作業体験③	革細工のスタンピング法を経験し，簡易作業分析を行う。
4	作業体験④	革細工の染色技法を経験し，簡易作業分析を行う。
5	作業体験⑤	革細工のパンチングを経験し，簡易作業分析を行う。
6	作業体験⑥	革細工の仕上げ加工を経験し，簡易作業分析を行う。
7	作業体験⑦	革細工のレーシングを経験し，簡易作業分析を行う。
8	作業体験⑧	スロージョギングを経験し，簡易作業分析を行う。
9	作業体験⑨	アイロンビーズを全工程経験し，簡易作業分析を行う。
10	作業体験⑩	レジンをういた作業活動を経験し，簡易作業分析を行う。
11	作業体験⑪	メタリックヤーンを用いた作業活動を全工程経験し，簡易作業分析を行う。
12	作業体験⑫	藤細工を経験し，簡易作業分析を行う。
13	作業体験⑬	藤細工を経験し，簡易作業分析を行う。
14	作業体験⑭	エコクラフトを経験し，簡易作業分析を行う。
15	作業体験⑮	毛糸を用いた作業活動を経験し，簡易作業分析を行う。

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床見学実習				
担当者氏名	兵頭 洋子				
授業方法	実習	単位・回	1単位・0回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 ○ DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の仕事内容に関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法士としての役割を知り、今後の学習意欲を高めるために、臨床現場の見学実習を通じて作業療法士の専門性を学ぶ。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 実習施設の特徴や役割、実習施設のリハビリテーション全体における位置づけ、作業療法部門の組織と役割、関連する他部門（職種）の役割と連携について説明できる。
2. 基本的なビジネスを実施できる。
3. 医療安全、実習施設規則、個人情報保護を遵守できる。
4. 臨床実習で得た知識や内容を臨床実習Ⅱに向けて共有することができる。

《学生の留意点》

見学時は目的意識、問題意識を持ち見学に臨むこと。初めての施設に伺うので、事前の準備を行い病院・施設で求められる基本的な言動、態度は身に着けてから見学に行くようにすること。

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナーを総合的に勘案して評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	施設の特徴を知る 作業療法士の役割を知る	5日間の臨床見学実習
2	発表・共有	実習後セミナー
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

医療情報を扱う心構えや医療情報の重要性を認識し、多岐に渡る情報収集スキルについて理解し、情報機器やITネットワークを活用して、情報・データ管理、活用をする能力について理解することを目的とする。具体的には、医療情報の種類の理解、情報収集の方法、ICFを用いた情報のまとめ方について修得する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

必要に応じて紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 情報の見極め方、情報源の確認にあたっての注意事項を説明できる
2. 医療情報の種類や収集方法、取り扱いについて説明できる
3. 医療情報のまとめ方を説明できる

《学生の留意点》

情報をどのように扱うか、目的、方法、手段、処理の仕方など作業療法で活用することができるように学習していただきたい。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80％ 課題20％

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、河野達哉他複数の作業療学科教員が担当し、その実務経験を授業内容の講義などにいかした授業となっています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	情報学総論	情報リテラシーとは
2	今どきのIT	SNS, セキュリティー等について
3	医療情報	医療情報の種類、専門用語
4	〃	患者情報、他部門情報、多職種連携についての情報
5	〃	作業療法で扱う情報
6	〃	情報を扱うときのマナー
7	情報収集	検索方法 ネット 文献を用いた調べ方
8	〃	作業療法で扱う情報収集について
9	〃	ICFを用いた整理の仕方①
10	〃	ICFを用いた整理の仕方②
11	〃	ICFを用いた整理の仕方③
12	〃	ICFを用いた整理の仕方④
13	データの視覚的表示	ICFでまとめたものの発表
14	〃	グループディスカッションにおける情報収集
15	まとめ	まとめ発表

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅱ				
担当者氏名	福井 健太郎				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の評価・治療が行えるようになるために、身体運動に関する基礎知識を習得する

《テキスト》

適宜資料を配布します。

《参考図書》

石井慎一郎：『動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践』、メジカルビュー社、2013
中村隆一・齋藤宏・長崎浩（著）：『基礎運動学第6版補訂』、医歯薬出版、2012
『クエスチョン・バンク理学療法士作業療法士国家試験問題解説2019』メディックメディア

《目標行動(SBO)》

1. 身体運動及び動作分析に必要な基礎知識について説明できる
2. 片麻痺者の障害像について説明できる
3. 正常歩行と異常歩行について説明できる
4. バランス検査について評価・説明できる

《学生の留意点》

この授業では理解を進めるために演習を行う時間があります。必要に応じて動きやすい服装で参加してください。1年次に学習済みの下記授業内容については各自復習しておくこと。

《成績評価の方法》

小テスト100%（60%に満たなければ別途課題を課す）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	姿勢	姿勢の基本
2	呼吸	呼吸器の構造と生理
3	代謝	基礎代謝、エネルギー代謝
4	脳卒中片麻痺	片麻痺者の障害像
5	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査（Br. Stageなど）
6	動作分析	動作のスクリーニング
7	反射検査	反射検査（腱反射・病的反射）
8	筋の評価	筋緊張の異常（MAS）
9	歩行①	正常歩行①
10	歩行②	正常歩行②
11	歩行③	異常歩行①
12	歩行④	異常歩行②
13	高次脳機能障害	高次脳機能障害概論
14	評価の記載①	評価の記載方法
15	評価の記載②	デイリーノート・各検査の解釈について

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習				
担当者氏名	福井 健太郎				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

日常生活活動を分析し、結果を作業療法に応用できるようになるために、人体運動の分析に必要な知識・技術を身につける

《テキスト》

配布資料

《参考図書》

中村隆一 他：『基礎運動学 第6版補訂版』. 医歯薬出版. 2012
細田多穂 他：『理学療法評価学テキスト』. 南江堂. 2010
山本伸一 編：『中枢神経系疾患に対する作業療法』. 三輪書店. 2009

《目標行動(SBO)》

1. 基本動作の遂行に必要な機能を、評価・分析・記述することができる
2. 上肢機能を評価・分析・記述することができる
3. それぞれの検査・測定を評価・測定することができる
4. 起居動作介助を実施することができる

《学生の留意点》

人体運動および日常生活活動において、どのような機能が必要とされるかを観察、分析する。この能力は、身体障害者の機能訓練のための評価・治療、および日常生活活動の評価・治療を行う上で基礎となるものである。演習（実習）が主体であるので、積極的に参加すること。

《成績評価の方法》

小テスト70% レポート30% (60%に満たなければ別途課題を課す)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	動作分析①	動作分析の方法について
2	動作分析②	基本動作（立ち上がり）の観察と分析
3	動作分析③	基本動作（寝返り）の観察と分析
4	動作分析④	基本動作（起き上がり）の観察と分析
5	動作分析⑤	坐位姿勢とリーチ動作の観察と分析
6	動作分析⑥	手関節の調節機能の観察と分析
7	動作分析⑦	手指の操作機能の観察と分析
8	運動機能の評価①	リーチ動作と上肢機能検査（STEF）
9	運動機能の評価②	運動失調と協調性検査
10	動作分析⑧	関節可動域制限と代償運動の観察と分析
11	バランス評価①	ファンクショナルリーチ、TUG
12	バランス評価②	座位・立位のバランス評価、ベルグバランススケール
13	脳神経検査	脳神経検査
14	疼痛	疼痛の評価
15	運動学習	神経経路と運動学習

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	病理学概論				
担当者氏名	堀田 綾子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために病理学の主な疾患の病態を組織像と共に基礎的知識を身につける。			

《一般教育目標(GI0)》

様々な疾患の特徴や原因について科学的な理解を深めるために、最低限必要な基本的医学用語と医学知識を身に付け、主な疾患の病態を組織像とともに学ぶ。

《テキスト》

指定なし。毎回授業内容に沿ったプリントを配布する。

《参考図書》

指定なし。

《目標行動(SBO)》

1. 外因の生物的要因の説明、代表疾患、退行/進行性病変、各諸型、免疫に關与する因子/細胞や傷害疾患、代表的な感染症の種類/特徴を説明、列挙できる。2. 代表的な腫瘍名、発生母組織との関係、悪性腫瘍の進展形式を説明できる。3. 呼吸、消化、生殖器に発生する代表疾患、特徴を説明できる。4. 脳出血・脳梗塞・くも膜下出血の原因、発生機序を説明できる

《学生の留意点》

病理学とは何か、病理学を学ぶ意義は何かについて、それぞれが考えてほしい。講義内容の理解を深めるため、復習は確実に行ってください。

《成績評価の方法》

筆記試験100%（期末試験）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	病理学総論 (1)	病理学とは何か 最近のトピックス
2	病理学総論 (2)	細胞障害と適応、変性、代謝障害
3	病理学総論 (3)	炎症
4	病理学総論 (4)	免疫、膠原病
5	病理学総論 (5)	感染症
6	病理学総論 (6)	腫瘍
7	病理学各論 (1)	呼吸器系の疾患1
8	病理学各論 (1)	呼吸器系の疾患2
9	病理学各論 (2)	消化器系の疾患1
10	病理学各論 (2)	消化器系の疾患2
11	病理学各論 (3)	生殖器系の疾患1
12	病理学各論 (3)	生殖器系の疾患2
13	病理学各論 (4)	脳・神経系の疾患1
14	病理学各論 (4)	脳・神経系の疾患2
15	まとめ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学				
担当者氏名	栗崎 博司、板東 充秋				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な臨床神経学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト』。南江堂。2017

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経内科領域の主な疾患についての診断について説明できる。
3. 神経内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる。
4. 神経内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	神経機能解剖／神経生理／診断総論（脳血管障害を含む）
2	〃	神経機能解剖／神経生理／診断総論（脳血管障害を含む）①
3	〃	神経薬理／治療総論／神経の成長・加齢
4	〃	神経薬理／治療総論／神経の成長・加齢
5	各論	変性疾患 パーキンソン症候群／認知症
6	〃	変性疾患 パーキンソン症候群／認知症
7	〃	高次脳機能障害
8	〃	高次脳機能障害
9	〃	高次脳機能障害（失語症を含む）
10	〃	高次脳機能障害（失語症を含む）
11	〃	意識障害／脳神経／運動の経路
12	〃	意識障害／脳神経／運動の経路
13	〃	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
14	〃	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
15	症候学	錐体外路症状／自律神経／異常歩行

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学				
担当者氏名	板東 充秋、栗崎 博司				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な臨床神経学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト』、南江堂、2017

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経内科領域の主な疾患についての診断について説明できる。
3. 神経内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる。
4. 神経内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	症候学	錐体外路症状／自律神経／異常歩行
2	〃	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
3	〃	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
4	〃	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
5	〃	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
6	〃	脳腫瘍／感染
7	〃	脳腫瘍／感染
8	〃	筋疾患／重症筋無力症
9	〃	筋疾患／重症筋無力症
10	〃	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
11	〃	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
12	〃	脱髄疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
13	〃	脱髄疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
14	〃	小児先天性疾患
15	〃	小児先天性疾患

《専門分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科				
担当者氏名	増岡 一典				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に資するために必要な整形外科の主な疾患概念・病態・整形外科的検査・診断と治療・予後等における、般的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法、作業療法に活かすために、整形外科の主要な疾患概念、病態、神経学的検査、診断、治療そして予後等における般的知識について修得する。

《テキスト》

医療情報科学研究所編：『病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科』。メディックメディア。2017。

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 骨、軟部組織の修復と再生について理解できる。 2. 整形外科診断、特に画像診断について理解できる。 3. 主要な疾患・外傷の治療、特に手術療法について理解できる。

《学生の留意点》

身体構造（解剖）の問題を取り扱う臨床医学です。どのような領域においても対象者が有していることが多く、その症状・病態生理・評価（検査法）・整形外科治療の理解は、安全かつ効果的な理学療法、作業療法につながります。3人で分担し、順番が前後することがあります。

《成績評価の方法》

期末試験100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	外傷Ⅰ	外傷総論
2	総論Ⅰ	診察、症候、検査
3	総論Ⅱ	治療
4	外傷Ⅱ	骨折、脱臼等
5	下肢の疾患Ⅰ	股関節・膝関節疾患
6	下肢の疾患Ⅱ	膝関節・足関節疾患
7	スポーツ外傷・障害	スポーツ外傷
8	体幹の疾患Ⅰ	頸椎疾患
9	体幹の疾患Ⅱ	胸椎・腰椎疾患
10	体幹の疾患Ⅲ	胸椎・腰椎疾患
11	上肢の疾患	肩関節・肘関節疾患等
12	末梢神経損傷、骨軟部腫瘍	末梢神経損傷、骨軟部腫瘍
13	脊髄腫瘍	脊髄腫瘍
14	リウマチ性疾患	関節リウマチ、脊椎関節炎等
15	骨系統疾患、代謝性疾患	軟骨無形成症、骨形成不全症、骨粗鬆症

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅰ				
担当者氏名	岡崎 史子、複数外来講師				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要な臨床内科学の主な疾患概念・病態・内科学的検査・診断と治療・予後等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

内科疾患の知識をもとに、作業療法に活かすために、主な内科疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療を知る。

《テキスト》

奈良勲他監修：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版』。医学書院。2020

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 内科学で扱う疾患について説明できる
2. 主な循環器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
3. 主な代謝性疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
4. 主な呼吸器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
5. 主な消化器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
6. 感染症、腎疾患、膠原病の特徴について説明ができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、複数の医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義などにいかした授業となっています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	内科学総論 4/5	(岡崎史子 先生)
2	内科学各論 4/12	血液・内分泌疾患①(原田芳巳 先生)
3	" 4/19	血液、内分泌疾患②(")
4	" 4/26	血液、内分泌疾患③(")
5	" 5/10	循環器疾患①(杉山佳史 先生)
6	" 5/17	循環器疾患②(")
7	" 5/24	循環器疾患③(")
8	" 5/31	消化器疾患①(政木隆博 先生)
9	" 6/7	消化器疾患②(")
10	" 6/14	呼吸器疾患①(福島 統 先生)
11	" 6/21	呼吸器疾患②(岡崎史子 先生)
12	" 6/28	感染症(関 正康 先生)
13	" 7/5	腎臓疾患(川村哲也 先生)
14	" 7/12	膠原病(木下牧子 先生)
15	総論 7/19	まとめ(岡崎史子 先生)

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅱ				
担当者氏名	遠藤 敏, 保崎 明				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2に育つために必要な臨床内科学(老年学・小児科学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

高齢期にある対象者を的確に理解するために、老化がもたらす生理学的変化や老年者の疾患の特徴について学ぶ。
作業療法へ展開するために、小児の生理・心理・疾病の特徴と小児保健に関する基本的な知識を学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

大村尉義編：『標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版』。医学書院。2014
日本老年医学会編：『老年医学テキスト3版』。MEDICALVIEW。2013

《目標行動(SBO)》

【老年医学】1. 高齢者の特徴と医療・福祉政策が言える 2. 老化と加齢、老年症候群の特徴を言える 3. 高齢者の機能・生活評価の説明ができる 【小児科学】1. 先天異常について説明できる。2. 新生児の特徴について説明できる。3. 感染症、または予防接種の種類を列挙できる。4. 小児の発達過程を説明できる。5. 小児保健について説明できる。6. 循環器障害の種類と特徴について説明できる。

《学生の留意点》

老年の疾患でなく、高齢の生活者として考えるようにしてほしい。小児科学においては「こどもは大人の小型ではないので小児の身体的・心理的特徴、及び疾患の特徴をよく理解し、問題解決、治療指導において必要な技能、相応しい態度を身に付けられるように学習に臨んでほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験100% (老年医学60%, 小児科学40%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤敏(理学療法士)と保崎明(小児科医)が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	老年学とは	老年医学から老年学への発展
2	高齢化の問題	高齢社会の抱える諸問題とその対策
3	老化現象	加齢に伴う老化現象の状況
4	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
5	高齢者の生理学的特徴1	高齢者の生理学的特徴(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚などの感覚器)
6	高齢者の生理学的特徴2	高齢者の生理学的特徴(呼吸、心臓、腎臓、肝臓などの臓器)
7	フレイルとロコモティブ・シンドローム	フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの理解
8	高齢者の主な疾患・認知症の理解	高齢者における、特に重要な疾患・認知症特有の症状の理解
9	高齢者の機能・生活評価	高齢者の機能・生活評価の検査項目とテストバッテリー
10	小児の疾病1	成長・発達、新生児疾患、先天異常、アレルギー疾患
11	小児の疾病2	腎・泌尿器・消化器疾患、感染症、川崎病
12	小児の疾病3	呼吸器、内分泌疾患、先天性心疾患、小児救急他
13	〃	感染症
14	小児の疾病と障害 保健	発達と小児保健・循環器障害
15	〃	発達と小児保健・循環器障害

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	リハビリテーション医学				
担当者氏名	関 勝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP2-に育つために必要なリハビリテーション医学の主な疾患概念・病態・検査・診断と治療・予防等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法/作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ。

《テキスト》

三上真弘：『リハビリテーション医学テキスト改訂第4版』、南江堂、2016。

《参考図書》

講義内で提示します。

《目標行動(SBO)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる。
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる。
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる。
4. 各障害の特徴を列挙できる。

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭に置いて勉強してほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳障害1	脳卒中・頭部外傷等の障害学
2	脳障害2	急性期のリハビリテーション
3	脳障害3	慢性期のリハビリテーション
4	脊髄損傷1	病態総論、診断法、合併症
5	脊髄損傷2	急性期のリハビリテーション
6	脊髄損傷3	慢性期のリハビリテーション
7	関節リウマチ1	疾患の概要・障害像、診断と評価その1
8	関節リウマチ2	診断と評価その2、リハビリテーション
9	神経・筋疾患1	パーキンソン病、脊髄小脳変性症
10	神経・筋疾患2	多発性硬化症、ALS、筋ジストロフィー症
11	骨・関節疾患	変形性関節症等
12	切断1	総論、切断と義肢
13	切断2	
14	循環器・呼吸器	
15	小児リハ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	精神医学概論				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

精神疾患のある対象者を的確に理解し、作業療法へ展開するために、主な精神障害および疾病の症状、それに対する一般的な治療について学ぶ

《テキスト》

上野 武治：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版』、医学書院。

《参考図書》

尾崎 紀夫：『標準精神医学 第7版』、医学書院、2018
大熊 輝雄：『現代臨床精神医学改訂第12版』、金原出版株式会社、2013

《目標行動(SBO)》

1. 精神医学の定義と関連領域について説明できる
2. 精神障害および精神障害者に関する概念について説明できる
3. 精神障害の成因と分類について説明できる
4. 精神障害の際に出現する精神症状について説明できる
5. 主な疾患についての診断と評価、治療について説明できる
6. 精神障害者が利用できる精神医療・福祉制度について説明できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野におけるセラピストとしての実務の経験を、精神医学の基礎という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	精神医学とは・精神障害の成因と分類
2	〃	精神機能の障害と精神症状
3	〃	精神障害の診断と評価
4	各論	脳器質性精神障害
5	〃	症状性精神障害・精神作用物質
6	〃	統合失調症（1）
7	〃	統合失調症（2）
8	〃	気分（感情）障害
9	〃	神経症性障害（不安症・強迫症・解離症・身体症状症他）
10	〃	パーソナリティ障害
11	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
12	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
13	〃	精神障害者の雇用促進と就労支援
14	〃	精神科保健・福祉の制度について
15	〃	精神障害リハビリテーション 各種治療法まとめ

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習Ⅱ				
担当者氏名	照井 林陽				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 DP2-に育つために基礎作業学演習に必要な評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法的手段として構成的作業、非構成的作業を用いるための基本的知識・技術を習得する

《テキスト》

古川宏：『つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル第2版』医歯薬出版株式会社、2018

《参考図書》

- 1) 山根寛：『ひとと作業・作業活動 新版』三輪書店、2017
日本作業療法士協会：『作業—その治療と応用 改訂第2版』協同医書出版社、2003
- 2) 浅沼辰志他：『基礎作業学実習ガイド 作業活動のポイントを学ぶ』協同医書出版社、2008

《目標行動(SBO)》

1. 各作業活動において、基本的な知識を説明できる
2. 各作業活動において、基本的な技術を実施できる
3. 各作業活動において、一連の工程を実施できる
4. 包括的作業分析を簡易的に実施できる

《学生の留意点》

- ・本授業は、構成的作業と非構成的作業の体験を通して作業の特徴等を学ぶ機会となる。
- ・臨床で必要な手段、有効な手段として作業活動を適切に選択するために、積極的な取り組みを推奨する。
- ・服装は動きやすく汚れてもよいもの、エプロン等を用意する。
- ・感染対策事項に基づいて演習に取り組むこと。

《成績評価の方法》

作品課題60% (作品3種：規定遵守40%、期限提出20%)

レポート課題40% (内容30%、期限提出10%)

*それぞれの詳細は別途説明します

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 非構成的作業①	非構成的作業を体験する。本陶芸の手びねり、玉作りを経験し、簡易作業分析を行う。
2	構成的作業①	構成的作業を体験する。編み物のかぎ針・棒針で作り目を経験し、簡易作業分析を行う。
3	非構成的作業②	非構成的作業を体験する。本陶芸の手びねり、玉作りを経験し、簡易作業分析を行う。
4	構成的作業②	構成的作業を体験する。編み物のかぎ針・棒針で基本の編み方を経験し、簡易作業分析を行う。
5	非構成的作業③	非構成的作業を体験する。本陶芸の板作り、紐作りを経験し、簡易作業分析を行う。
6	構成的作業③	構成的作業を体験する。編み物のかぎ針で細編み、棒針でガーター編みを経験し、簡易作業分析を行う。
7	非構成的作業④	非構成的作業を体験する。本陶芸の板作り、紐作りを経験し、簡易作業分析を行う。
8	構成的作業④	構成的作業を体験する。七宝焼の各工程、本陶芸の素焼き窯入れを経験し、簡易作業分析を行う。
9	非構成的作業⑤	非構成的作業を体験する。オープン陶芸の成形、素焼き窯出しを経験し、簡易作業分析を行う。
10	構成的作業⑤	構成的作業を体験する。七宝焼の各工程を経験し、簡易作業分析を行う。
11	非構成的作業⑥	非構成的作業を体験する。オープン陶芸の成形、本陶芸の施釉、本焼き窯入れを経験し、簡易作業分析を行う。
12	構成的作業⑥	構成的作業を体験する。バルサ木工で設計、木取りを経験し、簡易作業分析を行う。
13	非構成的作業⑦	非構成的作業を体験する。オープン陶芸の色付けと焼成、簡易作業分析を行う。
14	構成的作業⑦	構成的作業を体験する。バルサ木工で木取り、塗装を経験し、簡易作業分析を行う。
15	構成的、非構成的作業	構成的作業、非構成的作業を体験する。選択した作業を経験し、簡易作業分析を行う。まとめ

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	作業療法評価学総論				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために作業療法評価学総論に必要な評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

適切な作業療法を実施できるようになるために、作業療法評価の位置づけや考え方、評価計画の立て方、各領域に共通して行う評価法の概略、画像評価、流れを理解する。観察法、面接法、記録、情報の整理・統合、解釈の仕方を説明できるようにする。

《テキスト》

『標準作業療法学作業療法評価学第3版』. 医学書院. 2017

《参考図書》

適宜紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法の評価の目的について説明できる
2. 作業療法評価の過程について説明できる
3. 作業療法評価の手段について説明できる
4. 作業療法評価計画立案の考え方を説明できる
5. 情報収集から治療計画立案に至る過程を説明できる

《学生の留意点》

評価の基礎を学んでいきます。教科書を中心に進めていきますが、予習復習を含め、積極的に学習に臨んでください。感染状況を鑑みオンデマンドに変更する場合があります。

《成績評価の方法》

筆記試験80% 課題20% 総合的に判断して成績評価をする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学総論の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	作業療法評価の基礎	評価とは 視点, 理解するということ ICIDHからICFへ ICFの構成要素
2	作業療法の過程	評価と治療の違い 作業療法実践過程 情報収集について 手段 情報の種類 具体的な評価項目
3	障害受容	対象者の理解 障害受容
4	評価手順	評価の手順 評価計画 評価の手段 評価尺度
5	評価の信頼性 妥当性	評価の信頼性と妥当性 実施上の留意点
6	統合と解釈	評価のまとめと問題点抽出, 利点の抽出 統合と解釈
7	臨床推論	クリニカルリーズニング (臨床推論)
8	目標設定	目標設定について リハゴール 長期目標 短期目標 治療プログラムの種類と数
9	記録報告	記録・報告の意義と特徴
10	記録報告	記録・報告の意義と特徴
11	画像評価	画像評価について
12	作業療法評価の特性	他の専門職との視点の違い
13	観察法 面接法	観察法 面接法
14	観察法 面接法	観察法 面接法
15	〃	観察法 面接法

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	身体系作業療法評価学				
担当者氏名	福井 健太郎				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために身体系作業療法評価学の評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

1. 必要な検査・測定法を選択できるようになるために、各検査・測定法の目的・意義を理解できる
2. 基本的な検査・測定法を理解し、正しいオリエンテーションおよび安全で適切な検査・測定を実施できる

《目標行動(SBO)》

1. 各検査・測定の目的、意義を説明できる
2. 基礎的知識(解剖生理運動学)をもとにした検査測定とその意義の結び付きを説明できる
3. 各検査・測定のオリエンテーションを分かりやすい言葉で実施する
4. リスク管理・環境に配慮した検査を実施できる
5. 各検査・測定法を基本的な方法で実施できる

《成績評価の方法》

小課題(40%) 実技課題(60%)で評価する。
課題で60%未満のものは別途課題を課す。

《テキスト》

1. 能登真一他:標準作業療法学作業療法評価学第3版. 医学書院. 2017
2. 伊藤俊一:PT・OTのための測定評価ROM測定第2版. 三輪書店. 2010

《参考図書》

1. 田崎義昭他:ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版. 南山堂. 2016
2. 岡田岳ら:OT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター. 羊土社. 2018

《学生の留意点》

1. 予習・復習を積極的に行ってください
2. 基礎的知識を覚え、実際の動作をイメージしながら課題を遂行してください。
3. 実技練習の際は感染症予防を徹底して望んでください。
4. オンデマンド授業においては動画の視聴および課題提出で出席となります。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学演習の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	作業療法評価とは	作業療法評価とは
2	バイタルサイン	バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸・体温, Andersonの基準)
3	意識レベル・形態測定	意識レベル(JCS・GCS)・形態測定
4	関節可動域測定 ①	意義・器具の取扱い・検査法・リスク管理
5	関節可動域測定 ②	上肢(肩甲帯～肩関節)
6	関節可動域測定 ③	上肢(肩関節・前腕～手関節)
7	関節可動域測定 ④	上肢(母指・手指)
8	関節可動域測定 ⑤	下肢(股関節)
9	関節可動域測定 ⑥	下肢(膝関節～足関節)
10	関節可動域測定 ⑦	体幹・頸部
11	認知機能検査	認知症スクリーニング検査(HDS-R・MMSE)
12	感覚検査①	中枢神経障害の感覚検査:表在感覚・深部感覚・複合感覚
13	感覚検査②	末梢神経障害の感覚検査(ASIA)
14	実技のまとめ①	実技課題①
15	実技のまとめ②	実技課題②

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	身体系作業療法評価学演習				
担当者氏名	福井 健太郎、河野 崇、木下 輝				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために身体系作業療法評価学演習の評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

1. 必要な検査・測定法を選択できるようになるために、各検査・測定法の目的・意義を理解できる
2. 安全で適切な評価を実施することができるために、基本的な検査法を理解する

《目標行動(SBO)》

1. 検査・測定の目的、意義を説明できる
2. 基礎的知識をもとにした検査とその意義の結び付きを説明できる
3. 各検査・測定の基本的な方法を説明できる
4. リスク管理・環境に配慮した検査・測定の工夫を説明できる

《成績評価の方法》

筆記試験(70%)実技試験(30%)で評価する。
成績は総合的に判断する

《テキスト》

伊藤俊一(監):『PT・OTのための測定評価 MMT-頭部・頸部・上肢 第2版』,三輪書店,2016 伊藤俊一(監):『PT・OTのための測定評価 MMT-体幹・下肢 第2版』,三輪書店,2016

《参考図書》

《テキスト続き》
能登真一他(編):『標準作業療法学作業療法評価学第3版』,医学書院,2017 能登真一他(編):『標準作業療法学 高次脳機能作業療法学第2版』,医学書院,2019
参考図書は授業内で紹介する

《学生の留意点》

臨床実習Ⅰに関わる大事な授業です。運動学演習・日常生活評価学演習等の授業と連動して、作業療法評価の基礎を学んでいきます。予習・復習を含め積極的に学習し、実技では動きやすい服装・感染症予防対策をして参加してください。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学演習の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	徒手筋力検査法 ①	意義・検査法・基礎知識の確認
2	徒手筋力検査法 ②	上肢①
3	徒手筋力検査法 ③	上肢②
4	徒手筋力検査法 ④	上肢③
5	徒手筋力検査法 ⑤	上肢④
6	徒手筋力検査法 ⑥	上肢⑤
7	徒手筋力検査法 ⑦	下肢①
8	徒手筋力検査法 ⑧	下肢②
9	徒手筋力検査法 ⑨	下肢および体幹・頸部①
10	徒手筋力検査法 ⑩	下肢および体幹・頸部②
11	座位評価と車椅子①	シーティング①(岩谷先生)
12	座位評価と車椅子②	シーティング②(岩谷先生)
13	MTDLP	生活行為向上マネジメントの実践
14	運動機能の評価	フューゲルメイヤーアセスメント
15	高次脳機能検査①	失語(ST)

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	身体系作業療法評価学演習				
担当者氏名	河野 崇				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために身体系作業療法評価学演習の評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

1. 必要な検査・測定法を選択できるようになるために、各検査・測定法の目的・意義を理解できる
2. 安全で適切な評価を実施することができるために、基本的な検査法を理解する

《目標行動(SBO)》

1. 検査・測定の目的、意義を説明できる
2. 基礎的知識をもとにした検査とその意義の結び付きを説明できる
3. 各検査・測定の基本的な方法を説明できる
4. リスク管理・環境に配慮した検査・測定の工夫を説明できる

《成績評価の方法》

筆記試験（70％）実技試験（30％）で評価する。
成績は総合的に判断する

《テキスト》

Dale Avers（著）：『新・徒手筋力検査法 原著第10版』、協同医書出版社、2020

《参考図書》

《テキスト続き》
能登真一他（編）：『標準作業療法学作業療法評価学第3版』、医学書院、2017 能登真一他（編）：『標準作業療法学 高次脳機能作業療法学第2版』、医学書院、2019
参考図書は授業内で紹介する

《学生の留意点》

臨床実習Ⅰに関わる大事な授業です。運動学演習・日常生活評価学演習等の授業と連動して、作業療法評価の基礎を学んでいきます。予習・復習を含め積極的に学習し、実技では動きやすい服装・感染症予防対策をして参加してください。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学演習の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	運動発達①	運動発達①
2	嚥下機能検査	嚥下障害
3	運動発達②	運動発達②
4	高次脳機能検査②	コース立方体
5	症例報告書①	症例報告書とは
6	高次脳機能検査③	注意の評価
7	評価計画①	評価計画の立て方（基礎）
8	高次脳機能検査④	記憶 三宅式 ray, リバーミード
9	評価計画②	評価計画の立て方（実際・順序性）
10	高次脳機能検査⑤	半側空間無視の評価
11	症例報告書②	統合と解釈について
12	検査・測定の実施①	検査・測定の流れと実施方法
13	検査・測定の実施②	検査・測定の流れと実施方法
14	検査・測定の実施③・まとめ	対象者に応じた検査・測定の実施①
15	検査・測定の実施④・まとめ	対象者に応じた検査・測定の実施②

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	発達系作業療法評価学				
担当者氏名	兵頭 洋子				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために発達系作業療法評価実施に必要な知識を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として発達障害の対象者の発達段階と障害像の診方を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

発達障害(広義)の作業療法評価を実施できるようになるために必要な知識を身につける

《テキスト》

能登真一他編集：『作業療法評価学第3版』。医学書院。2017

《参考図書》

その都度紹介いたします。

《目標行動(SBO)》

1. 正常発達のマイルストーンを述べるができる
2. 粗大運動・上肢機能・感覚統合機能・認知機能等の発達がそれぞれ関連していることを説明できる
3. 発達障害領域の作業療法評価の目的、評価項目を列挙できる
4. 発達障害領域の作業療法評価で使用する評価法を列挙し、その特徴を述べるができる

《学生の留意点》

この授業では、発達障害領域の対象者を評価するための正常発達・評価法の知識を学ぶ。正常発達の知識は発達障害領域のみならず、身体障害領域・精神障害領域にも関与していく。関連を考えながら学習をしてください。

《成績評価の方法》

期末試験(筆記試験) 80%, 課題20% (10回分ワークシート実施)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法評価の実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション 胎児の発達	コースオリエンテーション 胎児の発達
2	正常発達①	運動発達と反射・反応との関連 知覚運動機能(感覚統合)の発達
3	正常発達②	認知機能の発達 社会性機能の発達
4	正常発達③	出生～3歳までの発達(上肢, 感覚・認知, 社会性機能の発達)
5	正常発達④	3～5歳までの発達()
6	発達過程評価法①	発達過程作業療法における発達検査の目的と留意点 発達全般を評価する検査①
7	発達過程評価法②	発達全般を評価する検査② 遠城寺式, DENVER II, KIDS など 一部検査を体験
8	発達過程評価法③	運動機能の評価①
9	発達過程評価法④	運動機能の評価② 姿勢・動作分析 など
10	発達過程評価法⑤	感覚統合機能の評価①
11	発達過程評価法⑥	感覚統合機能の評価② JPAN, JMAP, JSI-R, 感覚プロファイル など 一部検査を体験
12	発達過程評価法⑦	視知覚認・視覚認知の評価/知能・認知機能の評価①
13	発達過程評価法⑧	視知覚認・視覚認知の評価/知能・認知機能の評価② WPPSI III, KABC II, グッドイナフ, フロスティング, WAVES など 一部検査を体験
14	発達過程評価法⑨	行動の評価
15	発達過程評価法⑩ まとめ	作業遂行・身辺処理の評価 評価計画を立案する

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	精神神経系作業療法評価学				
担当者氏名	照井 林陽、河野 達哉				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために精神神経系作業療法評価学の評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法評価ができるために、作業活動を用いた評価の基本的知識・技術を習得する。

《テキスト》

長崎重信：『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学 第3版』メジカルビュー、2021

《参考図書》

岩崎テル子、他編：『標準作業療法学 作業療法評価学 第3版』医学書院、2017
生田宗博編：『作業療法学全書 改訂第3版 作業療法評価学』協同医書出版社、2009

《目標行動(SBO)》

1. 作業活動を用いた評価の視点について説明できる
2. 作業活動を用いた評価の方法を説明できる
3. 作業活動を用いた各評価を一部実施できる
4. 記録の意義、形式について、説明できる
5. 記録を一部実施できる

《学生の留意点》

本授業は、「作業を用いた評価」の基礎を学び、領域を問わずに作業活動を用いて対象者を評価する基盤となる、評価に作業活動を用いる特性や視点を学習する。
尚、本授業は自己を客観視する機会が含まれ、作業療法の特徴の一つである「the therapeutic use of the self」を考える機会となる。

《成績評価の方法》

筆記試験：85%、積極性：15%（小課題及び質疑応答）
上記合計で100%で6割に満たない場合は再試験とする。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	作業活動を用いた評価の概論①	オリエンテーション、作業療法における評価とは何か、なぜ作業活動を用いて評価をするのか、その意義と目的を学習する。
2	作業活動を用いた評価の概論②	作業と治療の同時並行性、作業を用いた評価の構造、EBOTのための評価について、作業体験を通して学習する。
3	観察法を用いた評価①	「見る」と「観察」の違い、観察の構造、verbal, nonverbal、観察の種類について、観察演習を通して学習する。
4	観察法を用いた評価②	観察の対象と場面、観察量を左右するもの、多眼的観察、観察の妥当性・信頼性・倫理性について、観察演習を通して学習する。
5	作業遂行を用いた評価	「箱づくり法」、作業遂行と問題解決の関係性、問題解決の過程を問題解決型の作業を体験しながら学習する。
6	精神障害領域の観察評価	精神障害領域における観察の留意点、観察ポイント、観察の焦点化、印象の取り扱いについて学習する。
7	面接法を用いた評価①	面接の意義と目的は何か、構造化面接と非構造化面接の特徴と違い、位置関係の使い分け方について学習する。
8	面接法を用いた評価②	面接における原則を踏まえ、面接にはどのような準備、注意、接触技術が必要かを学習する。
9	面接法を用いた評価③	「NPI興味チェックリスト」、作業活動と興味の関係を学び、興味を聴取する面接法を通して半構造化面接について学習する。
10	精神障害領域の面接評価	精神障害領域における面接の留意点、面接環境、転移、共感と傾聴、沈黙等を学習する。
11	各種評価・検査、尺度①	ISDA, SMSF
12	各種評価・検査、尺度②	Bacs-J, SCoRS-J, Rehab, LASMI, SDS, HAM-D
13	集団を用いた評価①	集団の特徴、構造、治療因子について学習する。
14	集団を用いた評価②	集団を用いた評価の視点について学習する。
15	記録の目的、形式、注意点	記録の目的と形式、注意点、作業療法の記録には何を書くべきかについて学習する。

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	日常生活評価学				
担当者氏名	福井 健太郎、河野 崇、木下 輝				
授業方法	演習	単位・回	1単位・16回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために日常生活評価学に必要な評価技術を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

対象者の日常生活動作を評価できるようになるために、知識・技術を身につける

《テキスト》

水落和也編：『ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版』。医学書院。2016 能登真一 編：『標準作業療法学 高次脳機能作業療法学第2版』

《参考図書》

慶應義塾大学医学部リハビリテーション科 訳：『FIM』。医学書センター1991
山本伸一編：『中枢神経系疾患に対する作業療法』三輪書店。2009

《目標行動(SBO)》

1. 代表的な日常生活動作の評価バッテリーの特徴を説明できる
2. FIMにある日常生活動作を評価するポイントを説明できる
3. 障害を持つ人の日常生活動作を観察・分析・評価できる
4. 健常者の日常生活動作の観察・分析・記録ができる
5. 高次脳機能障害者のADLを評価できる

《学生の留意点》

作業療法評価と臨床実習Ⅰに大きく関わる授業です。ADLを評価する知識と共に動作を見るための知識・技術を身につけ、動作を見る目とそれを表現する力を身につけましょう。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）90%，課題（レポート）10%
成績は総合的に判断する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	ADLとIADL	総論・ADLとIADL評価のテストバッテリーの種類と特徴
2	ADL評価スケール①	Barthel Indexの評価
3	ADL評価スケール②	FIMの評価①
4	ADL評価スケール③	FIMの評価②
5	ADL評価スケール④	FIMの評価③
6	ADLの観察と分析①	食事動作の観察と分析
7	座位評価と車椅子	小児の座位
8	ADLの観察と分析②	整容動作の観察と分析
9	作業評価スケール	COPMの実施
10	ADLの観察と分析③	更衣動作の観察と分析
11	高次脳機能障害①	高次脳機能障害とADL①
12	ADLの観察と分析④	排泄動作の観察と分析
13	高次脳機能障害②	高次脳機能障害とADL②
14	ADLの観察と分析⑤	洗体動作の観察と分析
15	介助方法	移乗動作

《専門分野 地域作業療法学》

科目名	地域作業療法学 I				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GI0)》

地域におけるリハビリテーションを実現するために、地域の生活における地域作業療法の役割と実践を知り、地域作業療法の必要性を説明できるようになる。

《目標行動(SB0)》

1. 地域作業療法学に必要な知識を説明できる
2. 各領域の作業法士の活動、役割を説明できる
3. 症例検討やレポート作成を通し、生活支援について自分の考えをまとめることができる

《成績評価の方法》

筆記試験なし。
課題100%：毎回のまとめワークシート提出(30%) レポート2課題(各35%)。

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

大田仁史著：『地域リハビリテーション論Ver7』、医歯薬出版株式会社、2018
太田睦美編：『作業療法学全書 第13巻 地域作業療法学 改訂第3版』、協同医書出版、2009年
大熊明編：『標準作業療法学 地域作業療法学 第3版』、医学書院、2017

《学生の留意点》

この授業は将来の自分が働いている領域を具体的にイメージできる機会につながります。幅広い領域のことを学ぶので、毎回何を学んだのかワークシートでまとめるようにしてください。受け身で講義を受けるのではなく、分からないことがあれば授業中に質問するようにしてください。また、レポート課題に対しては早めに準備に取りかかるようにしてください。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、地域作業療法という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	総論 歴史	基本的な枠組み 地域作業療法学の歴史から学ぶ
3	総論 枠組み 評価	基本的な枠組み 何を評価するのか
4	各論 基礎知識	精神障害者の地域サポートの基礎知識
5	"	発達障害者(児)の地域サポートの基礎知識
6	"	身体障害者の地域サポートの基礎知識
7	"	高齢期障害者の地域サポートの基礎知識
8	各論 実践	介護老人保健施設における作業療法士の実践
9	"	訪問リハビリテーション・デイサービスにおける作業療法士の実践①(身体/高齢期障害)
10	"	訪問リハビリテーション・デイサービスにおける作業療法士の実践②(発達障害者・児)
11	"	生活支援における作業療法士の実践(グループホーム)
12	"	就労支援における作業療法士の実践
13	"	高次脳機能障害者を地域で支える作業療法士の実践
14	"	終末期における作業療法士の実践
15	"	海外での作業療法士の実践

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習 I				
担当者氏名	木下 輝				
授業方法	実習	単位・回	2単位・0回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○ DP1-となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために検査測定を体験できる。 ○ DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 ○ DP3-に育つために地域包括ケアシステムの中での実習施設の役割について説明できる。 ○ DP4-に育つためにあるべき専門職の姿を考察する。				

《一般教育目標(GIO)》

1. 身体障害、生活期領域の作業療法評価を身につける為、実習指導者の元、対象者に対し、授業で得た検査/測定/評価を見学、模倣し理解する。2. 地域リハビリテーション臨床見学を通し、リハビリテーションをより有効に進める為必要な態度/知識/技術/技能の学習を目的とする。3. 作業療法士、職業人として適切な態度、行動の学習も目的とする。

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動を示すことができる
2. 学校で学んだ検査測定を見学・模倣レベルで行うことができる
3. 必要な情報収集を行うことができる
4. 通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションについて説明ができる
5. 記録・報告を実施できる。
6. 実習の振り返り、報告を行うことができる。

《学生の留意点》

実習オリエンテーション資料をよく読み、実習に臨むこと。授業で習った検査測定を事前によく練習したうえで実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

学院による成績評価「臨床実習指導報告書」および提出物、セミナー一点により総合的に評価する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は実習先の作業療法士が担当し、その実務経験を活かし、学生が実際に検査測定・評価を経験できる内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	検査・測定を見学・模倣する	対象者に対して、検査・測定（ROM、MMT、知覚検査、片麻痺機能検査、ADL検査等）を基本的な方法で見学・模倣する。
2	実習記録をつける 基本的な介助を経験する	実習ノートに検査・測定した内容を記載し、指導者からのフィードバックを受ける。 対象者に対して起居・移乗・移動などの基本動作の介助を経験する。
3	地域リハビリテーション を見学する	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについて見学し説明を受ける。
4	実習後セミナー	セミナーで実習の振り返り、報告ができる。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	作業療法研究法				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

臨床活動のまとめおよび研究が遂行できるようになるために、
研究に必要な知識・技術を習得する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

鎌倉矩子 他 作業療法士のための研究法入門 三輪書店
1997

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法に必要な研究の重要性を説明できる
2. 研究を遂行するために必要な知識を説明できる
3. 各種研究方法の概要を説明できる
4. 研究の結果を発表できる

《学生の留意点》

臨床活動をまとめ、作業療法の発展を支える研究方法の概要を
学習します。研究方法の種類、取り組み方や研究疑問、仮設設
定なども学びます。講義形式ではありますが、参加型の授業に
なりますので、グループワーク等積極的に参加してください。

《成績評価の方法》

研究計画書、発表80% 課題20%

《実務経験のある教員による科目》

当該研究分野における作業療法士としての実務経験を、作業療
法研究法の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	研究とは何か	研究するということについて考える
2	研究疑問とは	研究疑問とは何か、研究疑問の持ち方、タイプについて学習する
3	研究の流れ	研究の流れについて概観し文献レビュー、研究計画書の書き方を学習する
4	研究倫理	研究の倫理と管理につて
5	文献レビュー	文献レビューについて学習する
6	研究方法	文献的研究 理論研究
7	研究方法	調査研究 実験的研究
8	研究方法	調査研究 実験的研究
9	研究方法	シングルケース実験法 事例研究
10	データ収集	データ取得
11	データ収集	データ取得
12	データ収集	データ取得
13	データ解析・発表資料作 成	解析及び報告書作成
14	研究報告	最終発表会
15	研究報告	最終発表会

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	疾病管理論				
担当者氏名	複数外来講師				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために専門職として必要な知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法へ展開するために、オムニバス形式で栄養学、薬理学、救急救命について学び医療現場で生じる様々なリスクマネジメントについて学び、高度化する医療ニーズに対応するための基本的な知識を修得する。

《テキスト》

授業の中で資料を配布する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《目標行動(SBO)》

到達目標：

1. 栄養学の基礎知識と医療現場での食事療法の基礎を理解し説明できる。
2. 薬物の概要を学び生体内動態を理解し説明できる。
3. 救急救命の基礎知識と技術について理解し説明できる。

《学生の留意点》

作業療法業務の中で必要とされる重要な知識、技術を扱います。短時間ですが集中して習得してください。自分なりの疑問を抱きながら、積極的に授業に臨んでください。

《成績評価の方法》

栄養学、臨床薬学、救急救命医学の3領域で1/3ずつ評価し、総合的に成績評価を行う。

《実務経験のある教員による科目》

実務経験があるリハビリテーションスタッフ、薬剤師、救急救命士が担当する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	栄養学①	栄養学概論（栄養とは・消化と吸収）
2	栄養学②	栄養素の種類と機能Ⅰ（三大栄養素）
3	栄養学③	栄養素の種類と機能Ⅱ（ビタミン・ミネラル）
4	栄養学④	運動と栄養（エネルギー代謝・スポーツ栄養）
5	栄養学⑤	リハビリテーション栄養（リハビリテーション栄養とは・栄養評価・栄養ケアプロセス）
6	臨床薬学①	薬とは
7	臨床薬学②	薬の分類
8	臨床薬学③	薬の生体内動態（吸収、分布）
9	臨床薬学④	薬の生体内動態（代謝、排泄）
10	臨床薬学⑤	疾患に対する薬物療法
11	救命救急医学①	救急救命について
12	救命救急医学②	救急救命について
13	救命救急医学③	救急救命について
14	救命救急医学④	救急救命について
15	救命救急医学⑤	救急救命について

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習Ⅲ				
担当者氏名	河野 崇、兵頭 洋子、木下 輝				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 DP2-に育つために基礎作業学演習に必要な評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業活動を作業療法的手段として活用できるようになるため、各種作業活動を選択するための知識・技術を習得する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

山根寛：『ひとと作業・作業活動 新版』、三輪書店、2017
監修 武田淳史、編集 浅沼辰志：『作業処方－症例の分析と思考プロセス－』メジカルビュー、2013

《目標行動(SBO)》

1. 各種作業活動の特徴をとらえ、治療的に活用する方法を説明できる。
2. 治療目的に適した作業活動を選択し、その根拠を考察し説明できる。

《学生の留意点》

本授業は、作業活動を通じた治療計画を立案する基本的な考え方を学習する。これまでの各科目内容と経験を統合し、評価や治療において目的に応じて選択する作業活動の手段を増やす機会とする。本授業は、講義・実技・紙面症例・課題発表が含まれる。各作業体験への積極的な取り組みを望む。実技を伴う活動もあるため動きやすい服装を用意すること。

《成績評価の方法》

課題100% (ワークシート)

河野 崇：50%、木下 輝：25%、兵頭 洋子：25%

※ワークシートは規定遵守(30%)提出期限(30%)

内容(40%)で採点を行う。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	作業の機能的側面の利用	作業を用いた治療計画の立案方法 : 崇
2	作業選択と作業処方①	筋力向上のためのアクティビティー : 崇
3	高齢者への作業適応①	園芸① : 木下
4	作業選択と作業処方②	巧緻性の向上のためのアクティビティー : 崇
5	作業選択と作業処方③	高次脳機能向上のためのアクティビティー : 崇
6	作業選択と作業処方④	関節可動域向上のためのアクティビティー : 崇
7	高齢者への作業適応②	園芸② : 木下
8	作業選択と作業処方⑤	健康と幸福と作業 : 崇
9	子どもの遊び①	年齢別の遊び① : 兵頭
10	子どもの遊び②	年齢別の遊び② : 兵頭
11	子どもの遊び③	遊びの歴史① : 兵頭
12	子どもの遊び④	遊びの歴史② : 兵頭
13	高齢者への作業適応③	園芸③ : 木下
14	治療目的に適した作業選択	作業の治療的効果を踏まえた作業選択 : 崇
15	高齢者への作業適応④	園芸④ : 木下

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	職業関連活動評価学				
担当者氏名	中村 伴子				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DPI-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DPI-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 ○ DP2-に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために職業関連評価学に必要な評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

1. 学生は、職業関連活動の作業療法評価を実施できるようになるための知識を習得する。
2. 学生は代表的な疾患を有する対象者に職業関連活動に関する評価を実施できるようになるための知識を習得する。

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法における職業関連活動の位置づけを説明できる
2. 職業リハビリテーションの評価と方法について説明できる
3. 就労に関係した評価法の種類と特徴を説明できる
4. 上記主な評価法の手順を説明できる
5. 就労に関係した主な検査を学生間で実施できる
6. 就労支援の一連の流れを説明できる
7. 代表的な対象疾患に対する就労支援の概略を説明できる

《成績評価の方法》

期末試験(筆記試験 認知能力・知識) (80%)、課題(20%)で評価する。

課題：オンデマンド授業となった場合、オンデマンド課題15回を含む ①各授業のまとめ、②治療計画立案の演習まとめ(臨床思考能力)

《テキスト》

平賀昭信 編：『作業療法学全書 第12巻 作業療法技術学4(第3版)』。協同医書。2016

《参考図書》

鈴木孝治編：『高次脳機能障害領域の作業療法』。中央法規出版株式会社。2017
 宮尾益知編：『発達障害のリハビリテーション』。医学書院。2017 松為信雄：『職業リハビリテーション学』協同医書出版社。2006

《学生の留意点》

対象者の状況に合わせた職業復帰を支援できるようにするため、職業関連活動の評価と実務を学びます。評価を実際に行うよう、積極的にテストバッテリーの実施方法を演習し身につけてください。
 各領域で職業復帰の支援をしている作業療法士の評価・実践を講義してもらいます。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、障害者の職業関連活動の評価と支援及び就労の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	作業療法の仕事と就労支援	職業関連活動評価と支援
2	職業リハビリテーションにおける流れと評価	職業関連活動評価方法①
3	就労に関する検査方法	職業関連活動評価方法②VPI職業興味検査
4	就労に関する検査方法	職業関連活動評価方法③労働省編一般職業適性検査(GATB)
5	就労に関する検査方法	職業関連活動評価方法④職業レディネス・テスト
6	就労に関する評価方法	評価尺度による評価⑤マイクロタワー法
7	就労支援事業所における評価	就労支援事業所における役割と評価の流れ
8	就労に関する評価	就労に関する評価
9	身体障害の対象者への就労支援	身体障害領域の職業関連活動評価と実践
10	精神障害の対象者への就労支援	精神障害領域の職業関連活動評価と実践
11	地域で活躍する主労支援の実際	地域における職業関連活動評価と実践
12	発達障害の対象者への就労支援	発達障害領域の職業関連活動評価と実践
13	地域にある病院における就労支援	高次脳機能障害の評価と実践
14	事例検討	事例検討
15	授業のまとめ	職業関連活動評価まとめ

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	作業療法治療学特論				
担当者氏名	河野 達哉				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の各領域における治療計画の立て方を理解する。また、臨床的推論を理解し、症例を通して治療理論の用い方、問題点の抽出から治療計画立案までの流れを理解する。また、治療技法の基礎となるリスク管理や運動療法・物理療法等の基礎について理解し説明できるようにする。

《目標行動(SBO)》

1. 症例を通して評価計画立案の手順を説明できる。
2. 症例を通して治療計画立案の手順を説明できる。
3. 治療計画実施の際のリスク管理を説明できる。
4. 症例検討を通して作業療法の臨床的推論を理解し説明できる。

《成績評価の方法》

1. 課題レポート①（評価計画立案について 仮）35%
 2. 課題レポート②（治療計画立案について 仮）35%
 3. 課題レポート③（症例検討から学んだことについて 仮）30%
- 以上の課題レポートの提出をもって総合的に成績評定を行う。

《テキスト》

特に定めない

《参考図書》

濱口豊太編集 標準作業療法学 作業療法 臨床実習とケーススタディ 第3版 医学書院 2020
岡田岳、照井林陽編集 OT症例レポート赤ペン添削 羊土社 2018

《学生の留意点》

当科目は臨床実習で経験する症例に対して、作業療法士としてのかかわりかたがイメージできるように、各領域において症例検討を通して、評価や治療の仕方の実際を学べるように組み立てていく。評価における基本的な考え方、評価項目、評価バッテリーなどについては事前に復習しておき、症例検討にすぐに入れるように準備しておくことが望ましい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	臨床実習とケーススタディについて
2	総論	臨床実習とケーススタディについて
3	評価から治療	症例検討 提示された評価情報をもとに治療方針、治療計画の立案を考える
4	評価から治療	症例検討 治療計画立案
5	評価から治療	症例検討 治療計画立案
6	評価から治療	症例検討 提示された評価情報をもとに治療方針、治療計画の立案を考える
7	評価から治療	症例検討 治療計画立案
8	評価から治療	症例検討 治療計画立案
9	評価から治療	症例検討 提示された評価情報をもとに治療方針、治療計画の立案を考える
10	評価から治療	症例検討 治療計画立案
11	評価から治療	症例検討 治療計画立案
12	評価から治療	症例検討 提示された評価情報をもとに治療方針、治療計画の立案を考える
13	治療技法	症例検討 治療計画立案
14	治療技法	症例検討 治療計画立案
15	治療技法	まとめ

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	身体系作業治療学				
担当者氏名	河野 崇、福井 健太郎				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

身体障害の作業療法を実施できるようになるために知識・技術を習得する

《テキスト》

山口昇：『身体機能作業療法学（第4版）』．医学書院．2021
その他適宜，資料を配付する．

《参考図書》

- 菅原洋子，他：『身体障害の作業療法』（作業療法学全書4）．協同医書．2008
 - 石川齋，他：『作業療法技術ガイド（第3版）』．文光堂．2011
- その他，授業中に紹介

《目標行動(SBO)》

- 中枢神経疾患の治療について説明できる
- 脊髄損傷について説明できる
- 大腿骨骨折について説明できる
- 嚥下障害を説明できる
- ハンドセラピーについて説明できる
- 内部障害について説明できる
- 神経筋疾患について説明できる

《学生の留意点》

この授業では身体障害の作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する．まず，評価から治療計画までの基本的な考え方を学び，身体障害作業療法の中心となる疾患である脳血管疾患について評価から治療技術までを応用学習する．次いで未知の疾患や各種疾患の作業療法について学習する．

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し，その実務経験を活かした内容である．

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳血管障害①	脳血管疾患の基礎①（脳機能・疾患・障害）
2	機能訓練①	筋力増強訓練の基礎
3	脳血管障害②	脳血管疾患の基礎②（回復の神経生理・予後）
4	機能訓練②	立ち上がり動作の治療
5	脳血管障害③	脳血管疾患に対する作業療法 ①（急性期）
6	機能訓練③	OT場面における体幹下肢への治療（バランス）
7	脳血管障害④	脳血管疾患に対する作業療法 ②（回復期）
8	機能訓練④	移乗動作の治療と車椅子座位の姿勢調整
9	嚥下障害①	嚥下障害の異常を察知し，対処する①
10	嚥下障害②	嚥下障害の異常を察知し，対処する②
11	脊髄損傷①	脊髄損傷に対するOT①
12	脳血管障害⑤	脳血管疾患に対する作業療法 ③（維持期）
13	脊髄損傷②	脊髄損傷に対するOT②
14	脳血管障害⑥	頭部外傷に対するOT
15	脊髄損傷③	脊髄損傷に対するOT③

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	身体系作業治療学				
担当者氏名	河野 崇、福井 健太郎				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

身体障害の作業療法を実施できるようになるために知識・技術を習得する

《目標行動(SBO)》

1. 中枢神経疾患の治療について説明できる
2. 脊髄損傷について説明できる
3. 大腿骨骨折について説明できる
4. 嚥下障害を説明できる
5. 内部障害について説明できる
6. 神経筋疾患について説明できる

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《テキスト》

1. 山口昇：『身体機能作業療法学（第4版）』、医学書院、2021
2. 岡田岳編：『OT症例レポート赤ペン添削ビフォーアフター』羊土社、2008

《参考図書》

1. 菅原洋子、他：『身体障害の作業療法』（作業療法学全書4）、協同医書、2008
 2. 石川齋、他：『作業療法技術ガイド（第3版）』、文光堂、2011
- その他、授業中に紹介

《学生の留意点》

この授業では身体障害の作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。まず、評価から治療計画までの基本的な考え方を学び、身体障害作業療法の中心的な疾患である脳血管疾患について評価から治療技術までを応用学習する。次いで未知の疾患や各種疾患の作業療法について学習する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳血管障害⑦	協調障害のOT
2	脊髄損傷④	脊髄損傷に対するOT④
3	内部障害①	心電図
4	脊髄損傷者への支援①	高位脊髄損傷者のADLと就業の一般的状況①
5	内部障害②	内部障害に対するOT①呼吸器（グループワーク）
6	脊髄損傷者への支援②	高位脊髄損傷者のADLと就業の一般的状況②
7	内部障害③	内部障害に対するOT②心臓リハ（グループワーク）
8	神経筋疾患①	神経筋疾患に対するOT①パーキンソン病
9	内部障害④	内部障害に対するOT③糖尿病（グループワーク）
10	神経筋疾患②	神経筋疾患に対するOT②ギランバレー
11	整形外科疾患	大腿骨骨折に対するOT
12	神経筋疾患③	神経筋疾患に対するOT③多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症
13	内部障害⑤	癌に対するOT④（グループワーク）
14	神経筋疾患④	神経筋疾患に対するOT④脊髄小脳変性症
15	内部障害⑥	発表（グループワーク）

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	身体系作業治療学演習				
担当者氏名	福井 健太郎、河野 崇、木下 輝				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

身体障害の作業療法を実施できるようになるために、基礎的診察技術・治療手技を身につける

《テキスト》

なし 配布資料

《参考図書》

1. 山本伸一. 編集『中枢神経系疾患に対する作業療法』. 三輪書店. 2009
2. 岩崎テル子 他編:『身体機能作業療法学(第2版)』. 医学書院. 2011

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法の治療および治療手技を実施できる
2. ハンドセラピーの治療について説明できる
3. 身体障害領域で使われる道具について説明できる

《学生の留意点》

身体障害者に対する作業療法を実施する上で、基礎となる知識・技術・実技を学びます。積極的に参加すること。また、実技可能な服装を準備しておくこと。

《成績評価の方法》

期末試験(筆記試験80%, 実技試験20%)で総合的に評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	ハンドセラピー①	ハンドセラピーの実際①
2	ハンドセラピー②	ハンドセラピーの実際②
3	ハンドセラピー③	ハンドセラピーの実際③
4	ハンドセラピー④	ハンドセラピーの実際④
5	ハンドセラピー⑤	ハンドセラピーの実際⑤
6	ハンドセラピー⑥	ハンドセラピーの実際⑥
7	臨床推論	臨床推論
8	機能訓練①	関節可動域訓練①
9	機能訓練②	関節可動域訓練②
10	機能訓練③	関節可動域訓練③
11	機能訓練④	上肢機能の治療①
12	機能訓練⑤	上肢機能の治療② (activity)
13	機能訓練⑥	上肢機能の治療③ (activity)
14	機能訓練⑦	上肢機能の治療④ (課題志向型訓練)
15	整形外科疾患	物理療法の基礎

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	精神神経系作業治療学				
担当者氏名	・照井 林陽				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

精神障害の作業療法を実施できるようになるために知識・技術を習得する

《テキスト》

富岡詔子他：『精神障害 作業療法学全書 第5巻 第3版』協同医書出版社、2010

《参考図書》

長崎重信他：『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学 第3版』メジカルビュー社、2021 富岡詔子他：『精神障害 作業療法学全書 第5巻 第3版』協同医書出版社、2010 香山明美他：『精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—第2版』医歯薬出版、2014 山根寛：『精神障害と作業療法 新版』三輪書店、2010

《学生の留意点》

精神疾患・障害を多角的に理解しようとする視点と教科書等にとらわれない柔軟な学習姿勢が必要とされます。

《目標行動(SBO)》

1. 精神障害領域の作業療法評価計画・治療計画の流れを説明できる
2. 精神障害領域の作業療法で対応する対象者に対して、作業療法評価を計画し説明できる
3. 精神障害領域の作業療法で対応する対象者に対して、作業療法治療計画を立案し説明できる

《成績評価の方法》

筆記試験：85%。
積極性：15%（小課題及び質疑応答）
上記の合計100%で6割に満たない者は筆記再試験とする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、精神障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論 精神障害作業療法の歴史、源流	精神科作業療法の構造とは：精神科作業療法の実践の流れ、基本的視点
2	評価から治療までの流れ	評価から治療計画の流れと捉え方
3	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症① 概説、亜急性期の状態像 亜急性期における評価のポイント、留意点
4	〃	疾患別の作業療法 統合失調症② 回復指標、疲労感と経過のモデル 亜急性期における治療上の留意点
5	〃	疾患別の作業療法 統合失調症③ プログラム立案の原則、作業活動の選択例
6	〃	疾患別の作業療法 統合失調症④ 作業療法導入のポイント、7つの構成要素
7	〃	疾患別の作業療法 統合失調症⑤ 回復期の状態像、主要な評価項目
8	〃	疾患別の作業療法 統合失調症⑥ 回復期前期に必要な治療要素、プログラム立案上の注意
9	〃	疾患別の作業療法 統合失調症⑦ 回復期後期に必要な治療要素、プログラム立案上の注意、病期ごとにおけるOTの強み
10	〃	疾患別の作業療法 統合失調症⑧ プログラム立案演習—紙面症例から—
11	〃	理論とモデル リカバリー、ACT、ストレングスモデル（戸田）
12	症例検討①	疾患別の作業療法 統合失調症 地域における作業療法士の支援、援助（戸田）
13	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症 スーパー救急の概要と実践（山野井）
14	症例検討②	疾患別の作業療法 統合失調症 入院における作業療法の実際（山野井）
15	統合失調症の作業療法	疾患別の作業療法 統合失調症 デイケアの概要と実践（野口）

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	精神神経系作業療法学				
担当者氏名	照井 林陽、河野 達哉				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

精神障害領域の作業療法を実施できるようになるために、知識・技術を習得する

《テキスト》

富岡詔子他：『精神障害 作業療法学全書 第5巻 第3版』協同医書出版社、2010

《参考図書》

長崎重信他：『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学 第3版』メジカルビュー社、2021 富岡詔子他：『精神障害 作業療法学全書 第5巻 第3版』協同医書出版社、2010 香山明美他：『精神障害作業療法一急性期から地域実践まで一第2版』医歯薬出版、2014 山根寛：『精神障害と作業療法 新版』三輪書店、2010

《目標行動(SBO)》

1. 精神障害領域の作業療法評価計画・治療計画の流れを説明できる
2. 精神障害領域の作業療法で対応する対象者に対して、作業療法評価を計画し説明できる
3. 精神障害領域の作業療法で対応する対象者に対して、作業療法治療計画を立案し説明できる

《学生の留意点》

精神疾患・障害を多角的に理解しようとする視点と教科書等にとらわれない柔軟な学習姿勢が必要とされます。

《成績評価の方法》

筆記試験：85%。
積極性：15%（小課題及び質疑応答）
上記の合計100%で6割に満たない者は筆記再試験とする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、精神障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	抑うつ障害の特徴	疾患別の作業療法 抑うつ障害群①
2	抑うつ障害の評価から治療の流れ	疾患別の作業療法 抑うつ障害群②
3	抑うつ障害の評価から治療の流れ	疾患別の作業療法 抑うつ障害群③
4	抑うつ障害の評価から治療の流れ	疾患別の作業療法 抑うつ障害群④
5	抑うつ障害の評価から治療の流れ	疾患別の作業療法 双極性障害
6	抑うつ障害の評価から治療の流れ	疾患別の作業療法 抑うつ障害群⑤ 復職支援（リワーク）（高橋）
7	双極性障害の特徴、評価、治療	疾患別の作業療法 抑うつ障害群⑥ 予防的アプローチ（高橋）
8	パーソナリティ障害の特徴、評価、治療	疾患別の作業療法 パーソナリティ障害
9	強迫性障害の概説、特徴	疾患別の作業療法 強迫性障害群①
10	強迫性障害の評価、治療	疾患別の作業療法 強迫性障害群②
11	摂食障害の概説、特徴	疾患別の作業療法 摂食障害①
12	摂食障害の評価、治療	疾患別の作業療法 摂食障害②
13	児童成人期の発達障害	疾患別の作業療法 児童・青年期の精神障害（河野）
14	依存症の概説、特徴	疾患別の作業療法 依存症①（野口）
15	アルコール依存症の評価、治療	疾患別の作業療法 依存症②（野口）

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	精神神経系作業療法学演習				
担当者氏名	照井 林陽				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

精神障害領域において治療・対応ができるようになるために、評価から治療の導入方法、対応方法を習得し一部の対象者に対して実施できるようになる。

《目標行動(SBO)》

1. 精神障害領域に必要な評価方法を述べることができる
2. 導入およびかわりに必要な技能を理解し実施できる
3. 治療技法としてレクリエーションの企画を立案できる

《テキスト》

富岡詔子他：『精神障害 作業療法学全書 第5巻 第3版』協同医書出版社、2010

《参考図書》

長崎重信他：『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学 第3版』メジカルビュー社、2021 岩崎テル子：『標準作業療法学 作業療法評価学 第3版』医学書院、2017 山口美和：『PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド』医学書院、2016 堀田秀樹：『統合失調症・うつ病の作業療法の進め方』中山書店、2018

《学生の留意点》

精神障害作業療法学を基に、アプローチに関わる視点、スキルを中心に学習し演習します。

《成績評価の方法》

筆記もしくは実技試験：85%，小課題15%で総合的に評価する。

上記合計100%で6割に満たない場合は再試験とする。

授業形式（対面、遠隔）の実際に応じて試験方法を筆記もしくは実技形式とする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、精神障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	精神科作業療法におけるアプローチ及びスキルの概要
2	作業療法アプローチの基礎	作業の選定、導入、作業の段階付け、援助
3	〃	作業の援助、作業におけるフィードバック
4	〃	治療的態度、態度療法、信頼関係の構築、作業環境、集団の調整
5	接触・対応の基礎	精神科における関わり方と対応の応用①
6	〃	精神科における関わり方と対応の応用②
7	リスクマネジメント	精神科におけるハイリスク時における対応
8	作業療法関連技法	関連技法① 作業療法におけるMCT, NEARの活用①（山野井）
9	〃	関連技法② 作業療法におけるMCT, NEARの活用②（山野井）
10	〃	関連技法③ 作業療法における心理教育, SSTの活用①（山野井）
11	〃	関連技法④ 作業療法における心理教育, SSTの活用②（山野井）
12	〃	治療的レクリエーション①（統合失調症、認知症）（河野）
13	〃	治療的レクリエーション②（統合失調症、認知症）（河野）
14	〃	治療的レクリエーション③（統合失調症、認知症）（河野）
15	〃	治療的レクリエーション④（統合失調症、認知症）（河野）

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	発達系作業療法学				
担当者氏名	兵頭 洋子、河野 達哉、中村 伴子				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の影を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として治療に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

発達障害領域の作業療法を実施できるようになるために、知識・技術を習得する。

《テキスト》

加藤寿宏 編集：『標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版』。医学書院。2020

《参考図書》

長谷龍太郎編集：『発達障害領域の作業療法』。中央法規。2011
 福田恵美子編集：『標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版』。医学書院。2014
 田村良子著：『発達障害（作業療法全書 改訂第3版）』。協同医学出版社。2010

《目標行動(SBO)》

1. 発達障害領域での作業療法の評価計画・治療計画の流れを述べるができる
2. 発達障害領域の対象者に作業療法評価計画を立案できる
3. 発達障害領域の対象者に作業療法治療計画を立案できる
4. 発達障害領域での作業療法の現状を知り、今後の課題について自分の考えを述べるができる。

《学生の留意点》

この授業では発達障害領域の作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。まず、評価から治療計画までの基本的な考え方を学習する。そして、発達障害領域の作業療法の中心となる疾患である、発達障害・知的能力障害・脳性麻痺について、評価から治療まで学習する。授業は、講義・実技・紙面症例・課題発表を通し進めていく。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験100%）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	評価・治療計画立案の考え方 疾患別作業療法①	評価から治療計画立案までの考え方 知的発達障害に対する作業療法①
2	疾患別作業療法②	知的発達障害に対する作業療法②
3	疾患別作業療法③	症例検討 知的発達障害①
4	疾患別作業療法④	症例検討 知的発達障害②
5	疾患別作業療法⑤	脳性麻痺に対する作業療法①
6	疾患別作業療法⑥	脳性麻痺に対する作業療法②
7	疾患別作業療法⑦	脳性麻痺に対する作業療法③
8	疾患別作業療法⑧	脳性麻痺に対する作業療法④
9	疾患別作業療法⑨	脳性麻痺に対する作業療法⑤
10	疾患別作業療法⑩	脳性麻痺に対する作業療法⑥
11	疾患別作業療法⑪	重症心身障害児に対する作業療法①
12	疾患別作業療法⑫	重症心身障害児に対する作業療法②
13	疾患別作業療法⑬	発達障害に対する作業療法① 自閉スペクトラム症
14	疾患別作業療法⑭	発達障害に対する作業療法② 注意欠如多動症
15	疾患別作業療法⑮	症例検討 自閉スペクトラム症・注意欠如多動症①

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	発達系作業療法学				
担当者氏名	兵頭 洋子、河野 達哉、中村 伴子				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として治療に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

発達障害領域の作業療法を実施できるようになるために、知識・技術を習得する。

《テキスト》

加藤寿宏 編集：『標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版』。医学書院、2020

《参考図書》

長谷龍太郎編集：『発達障害領域の作業療法』。中央法規、2011

福田恵美子編集：『標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版』。医学書院、2014

田村良子著：『発達障害（作業療法全書 改訂第3版）』。協同医学出版社、2010

《目標行動(SBO)》

1. 発達障害領域での作業療法の評価計画・治療計画の流れを述べるができる
2. 発達障害領域の対象者に作業療法評価計画を立案できる
3. 発達障害領域の対象者に作業療法治療計画を立案できる
4. 発達障害領域での作業療法の現状を知り、今後の課題について自分の考えを述べるができる。

《学生の留意点》

この授業では発達障害領域の作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。まず、評価から治療計画までの基本的な考え方を学習する。そして、発達障害領域の作業療法の中心となる疾患である、発達障害・知的能力障害・脳性麻痺について、評価から治療まで学習する。授業は、講義・実技・紙面症例・課題発表を通し進めていく。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験100%）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	疾患別作業療法⑩	症例検討 自閉スペクトラム症・注意欠如多動症②
2	疾患別作業療法⑪	発達障害の二次障害・被害妄想に対する作業療法
3	疾患別作業療法⑫	各種疾患の作業療法 発表準備
4	疾患別作業療法⑬	筋ジストロフィーに対する作業療法①
5	疾患別作業療法⑭	筋ジストロフィーに対する作業療法②
6	発達・心理検査結果の解釈①	WISCⅢの結果の解釈①（外来講師）
7	発達・心理検査結果の解釈②	WISCⅢの結果の解釈②（外来講師）
8	疾患別作業療法⑮	各種疾患の作業療法 発表①
9	疾患別作業療法⑯	各種疾患の作業療法 発表②
10	疾患別作業療法⑰	摂食機能障害への作業療法①
11	疾患別作業療法⑱	摂食機能障害への作業療法②
12	疾患別作業療法⑲	摂食機能障害への作業療法③
13	疾患別作業療法⑳	摂食機能障害への作業療法④
14	ご家族の思いに寄り添う	ご家族の思い、グリーフサポート①（外来講師）
15	ご家族の思いに寄り添う	ご家族の思い、グリーフサポート②（外来講師）

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	発達系作業治療学演習				
担当者氏名	兵頭 洋子				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として治療に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

発達障害（広義）の作業療法を実施できるようになるために必要な基礎的技術を習得する。

《テキスト》

加藤寿宏編集 標準作業療法学 発達過程作業療法学第3版
医学書院 2020

《参考図書》

その都度紹介いたします。

《目標行動(SBO)》

1. 遊びの場面を通しての評価のメリット・デメリットについて述べることができる。
2. 遊びの場面を通して、対象者の作業療法評価を行える。
3. 治療理論を用い、対象者の作業療法計画を立案できる。
4. 障害像に合わせて作業治療計画を立案できる。

《学生の留意点》

この科目では、発達障害領域の作業療法を実施するうえで役立つ理論について、演習を通して学びます。講義だけでなく、グループワークを多く取り入れて行いますので、積極的に参加してください。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）80%，課題20%（レポート）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、発達障害の作業療法実施という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション・遊びの場面での評価①	遊びの場面での評価におけるメリット・デメリット
2	遊びの場面での評価②	遊具遊びを通しての評価
3	遊びの場面での評価③	玩具遊びを通しての評価
4	TEACCHプログラム①	TEACCHとは、構造化とは
5	TEACCHプログラム②	症例に合わせて、構造化を考える（グループワーク）
6	手指機能の運動障害への作業療法	手指機能の運動障害とは、手指機能の運動障害に対する作業療法アプローチ
7	応用行動分析①	応用行動分析とは
8	応用行動分析②	症例に合わせた関わりを考える（グループワーク）
9	コミュニケーション能力障害への作業療法	コミュニケーションとは、コミュニケーション能力の障害とは、コミュニケーション能力障害に対する作業療法アプローチ
10	視運動・視知覚認知機能障害への作業療法	視運動・視知覚認知機能とは、視運動・視知覚認知機能の障害とは、視運動・視知覚認知機能に対する作業療法アプローチ
11	感覚統合理論①	感覚統合とは、感覚統合障害について
12	感覚統合理論②	感覚統合遊具の体験
13	感覚統合理論③	症例に合わせて、感覚統合遊具を使用した遊びを考える（グループで発表準備）
14	感覚統合理論④	症例に合わせて、感覚統合遊具を使用した遊びを考える（発表）
15	発達障害領域の作業療法の実践	発達障害領域の作業療法の実践

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	高齢期作業療法学				
担当者氏名	木下 輝、複数外来講師				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

高齢期のクライアントに対する作業療法実践を理解するために、高齢期の作業療法における評価の流れと支援課程で用いられる各理論を理解し、作業療法士の役割を知る

《テキスト》

山田 孝(編)：『臨床作業療法シリーズ 高齢期障害領域の作業療法第2版』、中央法規出版社、2016

《参考図書》

岡田岳ら(編)：『OT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』、羊土社、2018

《目標行動(SBO)》

1. 高齢期のクライアントに必要な評価項目を挙げ、治療計画を立案できる
2. 医療・介護分野における各作業療法提供施設の役割と目的を説明できる
3. 高齢期の各施設における作業療法の流れを説明できる
4. 認知症のあるクライアントに対する支援方法の流れを説明できる
5. ケーススタディを通し、クライアントに応じた具体的な援助方法を知る

《成績評価の方法》

期末試験(筆記試験) 70%、課題(レポート) 30%
 期末試験と課題の点数が6割に満たないものは再試験(筆記試験100%)とする

《学生の留意点》

高齢期のクライアントは個人差が大きく様々な疾患を呈し、作業療法提供場面も多岐に渡っています。これまで学んできた基礎医学、臨床医学、評価・治療学の知識を活用し、包括的に「その人らしさ」を理解する必要があります。この授業では事例検討等を通し具体的高齢期作業療法の役割と援助内容を学んで頂きます。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、老年期作業療法治療学の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	高齢期作業療法の知識①	オリエンテーション、日本の高齢者の現状
2	高齢期作業療法の知識②	高齢者に対する作業療法の知識
3	高齢期作業療法の知識③	高齢者に対する作業療法の理論
4	高齢期作業療法の知識④	高齢者に対する作業療法の過程
5	高齢期作業療法の知識⑤	高齢期作業療法の評価方法
6	生活行為向上マネジメント①	生活行為向上マネジメントの概要(佐藤)
7	生活行為向上マネジメント②	生活行為向上マネジメントを用いた事例検討(佐藤)
8	認知症と作業療法①	認知症の作業療法の概要(小橋)
9	認知症と作業療法②	認知症の作業療法の実際(小橋)
10	認知症の評価から治療計画①	認知症の作業療法 評価から治療計画の考え方の基礎(小橋)
11	認知症の評価から治療計画②	認知症の作業療法 評価から治療計画の考え方の応用(小橋)
12	認知症の予防的作業療法	認知症高齢者への予防的作業療法(小橋)
13	重度認知症	重度認知症高齢者への作業療法(小橋)
14	若年性認知症	若年性認知症者への作業療法(黒川)
15	症例検討①	認知症患者の症例検討(黒川)

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	高齢期作業療法学				
担当者氏名	木下 輝、複数外来講師				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

高齢期のクライアントに対する作業療法実践を理解するために高齢期の作業療法における評価の流れと支援課程で用いられる各理論を理解し、作業療法士の役割を知る

《テキスト》

山田 孝(編):『クリニカル作業療法シリーズ 高齢期障害領域の作業療法』, 中央法規出版社, 2016 岡田岳ら(編):『OT 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』, 羊土社, 2018

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 高齢期のクライアントに必要な評価項目を挙げ、治療計画を立案できる 2. 医療・介護分野における各作業療法提供施設の役割と目的を説明できる 3. 高齢期の各施設における作業療法の流れを説明できる 4. 認知症のあるクライアントに対する支援方法の流れを説明できる 5. ケーススタディを通し、クライアントに応じた具体的な援助方法を知る

《学生の留意点》

高齢期のクライアントは個人差が大きく様々な疾患を呈し、作業療法提供場面も多岐に渡っています。これまで学んできた基礎医学、臨床医学、評価・治療学の知識を活用し、包括的に「その人らしさ」を理解する必要があります。この授業では事例検討等を通し具体的な高齢期作業療法の役割と援助内容を学んで頂きます。

《成績評価の方法》

期末試験(筆記試験) 70%, 課題(レポート) 30%
 期末試験と課題の点数が6割に満たないものは再試験(筆記試験100%)とする

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、老年期作業療法治療学の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	症例検討②	認知症患者の症例検討(黒川)
2	症例検討③	認知症患者の症例検討(黒川)
3	領域別の支援①	急性期病院における作業療法支援
4	領域別の支援②	回復期病院における作業療法支援
5	領域別の支援③	介護老人保健施設・通所施設における作業療法支援(楠本)
6	領域別の支援④	訪問リハビリテーションの作業療法支援
7	領域別の支援⑤	地域における予防的作業療法支援
8	症例報告書の作成①	症例情報から評価計画の立案
9	症例報告書の作成②	評価結果から問題点の抽出
10	症例報告書の作成③	目標・治療プログラム立案
11	症例報告書の作成④	情報収集から評価・治療の流れ
12	症例報告書の作成⑤	問題点の抽出と目標設定
13	症例報告書の作成⑥	治療計画立案
14	症例報告書の作成⑦	考察の書き方
15	症例報告書の作成⑧	最終評価の考察の書き方

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	高次脳機能作業療法学				
担当者氏名	河野 崇、複数外来講師				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		☐ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ☐ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

高次脳機能障害者への作業療法を実施できるようになるために、基礎知識・評価の知識・治療方法を理解する。

《テキスト》

能登真一 編) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版

《参考図書》

森岡周 著) 高次脳機能のニューロリハビリテーション

《目標行動(SBO)》

1. 脳の機能局在と高次脳機能障害について説明できる
2. 観察から高次脳機能障害の全体像を説明できる
3. 検査測定の結果から高次脳機能障害の程度を説明できる
4. 高次脳機能障害の支援方法を説明できる

《学生の留意点》

高次脳機能障害への支援を行う上で必要となる知識・技術・臨床的思考を学びます。積極的に参加すること。

《成績評価の方法》

期末試験90% (筆記試験 100%)
小テスト10% (全3回)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	高次脳機能の全体像
2	高次脳機能の基礎①	高次脳機能の局在論・全体論
3	高次脳機能の基礎②	脳画像①
4	高次脳機能の基礎③	脳画像②
5	高次脳機能の評価	検査測定からの評価、観察からの評価 ※小テスト①
6	高次脳機能障害への支援①	注意障害
7	高次脳機能障害への支援②	記憶障害
8	高次脳機能障害への支援③	失語① (左半球損傷者への支援)
9	高次脳機能障害への支援④	失語② (左半球損傷者への支援)
10	高次脳機能障害への支援⑤	失行・失認 ※小テスト②
11	高次脳機能障害への支援⑥	半側空間無視 (右半球損傷への支援)
12	高次脳機能障害への支援⑦	情動障害 (頭部外傷への支援)
13	高次脳機能障害への支援⑧	遂行機能障害・前頭葉症状 (頭部外傷への支援)
14	学習について	運動学習
15	高次脳機能障害への支援	まとめ ※小テスト③

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	日常生活作業治療学				
担当者氏名	福井 健太郎、河野 崇				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

対象者の生活の質を向上させるために、日常生活の評価と治療、福祉機器による代償手段についての知識・技術を身につける。

《テキスト》

水落和也編：『ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版』。医学書院。2016

《参考図書》

酒井ひとみ 編：『作業療法学全書 作業療法技術学3 日常生活活動 第3版』。協同医書。2011

《目標行動(SBO)》

1. 日常生活動作の評価と治療を実施できる
2. 対象者に対し、自助具を提案できる。
3. 家事動作 (IADL) について説明できる
4. ベッド上のポジショニングについて説明できる
5. リウマチ患者に対し、日常生活動作の注意点を説明できる

《学生の留意点》

ADLの治療や自助具・福祉機器についての使用方法・適用や評価を学びます。対象者に自分で使用方法の指導やその適用の評価ができるようになることを目的としているので、積極的に道具の使用方法を検討してください。

《成績評価の方法》

期末(筆記試験) 100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士、福祉機器業者としての実務経験を活かし、日常生活動作と福祉機器を評価を経験できるような演習科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	日常生活活動の治療	総論
2	ADLの評価と治療①	食事(利き手交換)
3	ADLの評価と治療②	更衣動作
4	ADLの評価と治療③	排泄動作
5	ADLの評価と治療④	整容動作
6	ADLの評価と治療⑤	洗体動作
7	ADLの評価と治療⑥	寝返りの評価と治療
8	ADLの評価と治療⑦	起き上がり動作の評価と治療
9	IADLの支援①	障害を持つ人の家事動作(掃除・布団敷・料理)①
10	IADLの支援②	障害を持つ人の家事動作(掃除・布団敷・料理)②
11	IADLの支援③	障害を持つ人の家事動作(掃除・布団敷・料理)③
12	ポジショニング	良肢位のポジショニング
13	リウマチ①	リウマチ患者の生活
14	リウマチ②	リウマチ患者に対する生活指導
15	症例報告	ADL関連の症例報告書について

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	生活環境支援作業療法学				
担当者氏名	木下 輝、森田 浩章、沼尾 拓、兵頭 洋子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GI0)》

学生は、対象者が症状・環境に適応し生活できるために、環境・機器の評価・適応を学びその知識・技術を身につける

《テキスト》

国際福祉機器展2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本
『はじめてのベッド、リフト等移乗用品、杖・歩行器、車椅子基本動作編』

《参考図書》

酒井ひとみ編：『作業療法全書 作業療法技術学3 日常生活活動(第3版)』 協同医書、2009
その他、随時紹介する

《目標行動(SB0)》

1. 環境改善の方法について説明できる
2. 身体障害を補う機器を説明できる
3. 身体障害を補う機器を障害に合わせて適用できる
4. 動作の工夫方法を説明できる
5. 機器・方法の工夫を説明できる
6. 上肢装具を症状に合わせた作成方法を知る
7. 上肢装具を症状に合わせた適用を説明できる

《学生の留意点》

作業療法士のアプローチは人と環境に二分され、この授業では特に環境

(道具を含む)について学び、環境の換え方や道具の適用方法を学びます。環境を対象者の生活に合わせることができるとを目的とします。環境の評価・工夫・実践を具体的に学んでください。生活適応学演習と関連して学んでください。

《成績評価の方法》

期末試験(筆記試験) 100%

期末試験の点数が6割に満たないものは再試験(筆記試験)とする

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士ならびに理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	自助具・福祉用具の知識	福祉用具の定義と用いる意義
2	生活環境整備の知識	生活環境整備の概要
3	車椅子と在宅支援の知識(4/20)	車椅子を中心とした生活環境支援の概要(太田)
4	支援機器と住環境の知識(4/27)	ICTを用いた作業療法支援の概要(太田)
5	歩行補助具の基礎	杖・松葉杖・シルバーカーの種類
6	下肢装具・義足の基礎	下肢装具・義足の種類
7	福祉用具の概要(5/25)	福祉用具・リフトの紹介(アビリティーズ)
8	義手の知識(6/8)	義手の種類(阿部)
9	小児領域の環境調整の知識	小児領域の福祉機器・自助具の基礎知識
10	上肢装具の知識	スプリントの基礎知識①(仲木)
11	上肢装具の知識	スプリントの基礎知識②(仲木)
12	上肢装具の知識	スプリントの基礎知識③(仲木)
13	上肢装具の知識	スプリントの基礎知識④(仲木)
14	住宅改修の知識(7/20)	住宅改修の基礎知識、図面の見方・書き方(山本)
15	住宅改修の知識(7/27)	住宅改修の例とその理解(山本)

《専門分野 作業療法治療学》

科目名	生活環境支援作業療法学演習				
担当者氏名	木下 輝、森田 浩章、沼尾 拓、兵頭 洋子				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるために専門職として障害者の診方を身につける。 ○ DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

学生は、対象者が症状・環境に適応し生活するために、環境・機器の評価・適応を学びその知識・技術を身につける

《目標行動(SBO)》

1. 障害を持つ人を取り巻く環境の改善を工夫できる
2. 身体障害を補う機器を説明できる
3. 機器・方法の使い方とその工夫を説明できる
4. 対象者の不便さに対して環境・機器で解決する方法を工夫できる
5. 上肢装具を作製できる

《成績評価の方法》

期末試験は実施しない。課題で評価する。
課題：レポート（75%）、スプリント（25%）で総合的に評価する。

《テキスト》

国際福祉機器展2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本
『はじめてのベッド、リフト等移乗用品、杖・歩行器、車椅子基本動作編』

《参考図書》

＜テキスト＞
国際福祉機器展H.C.R.2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本
『はじめての住宅改修』『はじめての福祉車両、福祉に役立つ情報機器』
＜参考図書＞細田多穂監修：シンプル理学療法・作業療法学シリーズ『生活環境学テキスト改訂第2版』。南江堂、2020

《学生の留意点》

生活適応学で学んだ内容を実際に行えるよう環境・道具の具体的な評価・工夫・実践を実技を通して学びます。対象者に適用できるようになるために、対象者の障害像を常に思い浮かべながら、具体的に考え学びましょう。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士ならびに理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	自助具・福祉用具の応用	場面に応じた自助具の選定
2	生活環境整備の応用	場面に応じた生活環境整備の方法
3	車椅子と在宅支援の応用 (4/20)	車椅子を中心とした生活環境支援の実践（太田）
4	支援機器と住環境の応用 (4/27)	ICTを用いた作業療法支援の実践（太田）
5	歩行補助具の応用	杖・松葉杖・シルバーカーの選定方法
6	下肢装具・義足の応用	下肢装具・義足の選定方法
7	福祉用具の応用 (5/25)	福祉用具・リフトの使用方法（アビリティーズ）
8	義手の応用 (6/8)	義手の適用（阿部）
9	小児領域の環境調整	小児領域の福祉機器・自助具の実践
10	上肢装具	スプリントの応用①（仲木）
11	上肢装具	スプリントの応用②（仲木）
12	上肢装具	スプリントの応用③（仲木）
13	上肢装具	スプリントの応用④（仲木）
14	住宅改修の応用（7/20）	住宅改修の基礎知識、図面の見方・書き方（山本）
15	住宅改修の応用（7/27）	住宅改修の例とその理解（山本）

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ-A				
担当者氏名	照井 林陽、河野 達哉				
授業方法	実習	単位・回	2単位・0回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために評価を体験できる。 ○ DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 ○ DP3-に育つために実習施設の役割について説明できる。 ○ DP4-に育つためにあるべき専門職の姿を考察できる。			

《一般教育目標(GIO)》

精神障害領域の作業療法が実施できるようになるために、精神科作業療法の実践過程を理解する。

《テキスト》

指定なし 関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人としての適切な態度や行動をとることができる。
2. 精神科領域の作業療法を実践するための観察・面接などの基本的な知識・技能について説明できる。
3. 精神科領域の作業療法場を観察し、対象者と参加場面を理解し作業療法内容を説明できる。

《学生の留意点》

受け身ではなく、自分から知ろう、学ぼうという姿勢を常に持ち続けて実習に臨んでください。
精神科領域の対象者と直接かかわれる貴重な経験です。実習施設対象者への感謝の気持ちを持って臨んでください。

《成績評価の方法》

指導者による成績評定と学院のセミナー評定を合算して総合的に成績を判定する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士として実務の経験を、作業療法実施という観点から実習内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	実習施設の概要、作業療法部門についてのオリエンテーション
2	作業療法実践過程の経験	作業療法プログラムに参加し、対象者の観察、作業療法の実践場面の観察
3	作業療法実践過程の経験	作業療法プログラムに参加し、対象者の観察、作業療法の実践場面の観察
4	作業療法実践過程の経験	対象者について理解を深める
5	作業療法実践過程の経験	対象者と適切な距離を意識したかかわり方を見学・模倣する
6	作業療法実践過程の経験	対象者と適切な距離を意識したかかわり方を見学・模倣する
7	作業療法実践過程の経験	精神科領域の作業療法の治療構造、作業活動の使い方を観察し理解する
8	作業療法実践過程の経験	精神科領域の作業療法の治療構造、作業活動の使い方を観察し理解する
9	作業療法実践過程の経験	記録の書き方を見学、模倣する
10	まとめ	まとめとして、目標行動が達成できたかを確認する
11	実習後セミナー	セミナーで実習の振り返り、報告ができる。
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ-B				
担当者氏名	福井 健太郎、河野 崇、木下 輝				
授業方法	実習	単位・回	3単位・0回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1-となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 ○ DP2-に育つために評価を体験できる。 ○ DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 ○ DP3-に育つために実習施設の役割について説明できる。 ○ DP4-に育つためにあるべき専門職の姿を考察できる。			

《一般教育目標(GIO)》

1. 身体障害領域の作業療法評価を身につけるため、実習指導者のもと、対象者に対し、授業で得た面接、観察、検査・測定・評価を見学、模倣・実施する。
2. 1症例に対し、評価結果や収集した種々の情報の統合と解釈、問題点の抽出から目標設定の各々の方法を経験する。
3. 作業療法士、職業人として適切な態度、行動の学習も目的とする。

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動を示すことができる
2. 学校で学んだ検査測定を見学・模倣・実施できる
3. 必要な情報収集を行うことができる
4. 1症例について問題点の抽出、統合と解釈、目標設定ができる。
5. 記録・報告を実施できる。
6. 実習の振り返り、報告を行うことができる。

《学生の留意点》

学習オリエンテーション資料を良く読み、実習に臨むこと。授業で習った検査測定を事前によく練習したうえで実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

学院による成績評価「臨床実習指導報告書」および提出物、セミナー一点により総合的に評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は実習先の作業療法士が担当し、その実務経験を活かし、学生が実際に検査測定・評価および、評価をまとめる経験ができる内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	検査・測定を見学・模倣・実施を行う	対象者に対して、検査・測定（ROM, MMT, 知覚検査、片麻痺機能検査、ADL検査等）を基本的な方法で見学・模倣・実施し、作業療法評価を経験する。
2	評価結果に対し統合と解釈、目標設定を経験する	1症例の検査・測定・評価結果に対し、指導者のもとで、統合と解釈、目標設定を行う。
3	実習記録をつける基本的な介助を経験する	実習ノートに検査・測定した内容を記載し、指導者からのフィードバックを受ける。対象者に対して起居・移乗・移動などの基本動作の介助を経験する。
4	実習後セミナー	セミナーで実習の振り返り、報告ができる。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活》

科目名	作業療法研究法Ⅱ				
担当者氏名	河野 崇				
授業方法	講義	単位・回	1単位・7回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

事例研究の素地とするため、これまで学んできた作業療法の対象者における専門基礎知識の整理と統合を行い、疾病と障害の成り立ち及び回復について説明できる。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

適宜紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 専門基礎分野における臨床医学の知識を整理し統合する。
2. 実習で学んだ事例以外の疾病・障害についても臨床医学の領域の知識を用いて説明できる。
3. 作業療法の展開するために代表的な疾患の病態、症状、評価、治療を再確認し、臨床実習で経験した事例についての理解を深める。

《学生の留意点》

実習で学んだことを含め総復習を行います。計画を立てて授業に臨んでください。

《成績評価の方法》

筆記試験（小テスト、まとめテスト）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の事例報告作成に活かした授業として
いる。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	コースオリエンテーション
2	専門基礎	専門基礎知識の整理と統合
3	〃	専門基礎知識の整理と統合
4	〃	専門基礎知識の整理と統合
5	〃	専門基礎知識の整理と統合
6	〃	専門基礎知識の整理と統合
7	〃	専門基礎知識の整理と統合
8	〃	専門基礎知識の整理と統合
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活》

科目名	作業療法研究法演習				
担当者氏名	河野 崇				
授業方法	演習	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

これまで学んできた作業療法の対象者における専門基礎知識の整理と統合を行い、疾病と障害の成り立ち及び回復について説明し、作業療法実施のための手順を振り返り、自身の課題を再確認し、不足している知識技術の総点検を行う。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

適宜紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 専門分野における知識、技術を整理し統合する。
2. 実習で学んだ事例以外の疾病・障害についても作業療法実施の手順を説明できる。
3. 作業療法を展開するために代表的な疾患の病態、症状、評価、治療を再確認し、臨床実習で経験した事例についての理解を深める

《学生の留意点》

計画的に進められるように準備をして授業に臨んでください。

《成績評価の方法》

筆記試験（小テスト まとめテスト）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容のポスター発表に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション	コースオリエンテーション 資料配付
2	専門分野	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
3	〃	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
4	〃	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
5	〃	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
6	〃	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
7	〃	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
8	〃	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
9	〃	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
10	〃	専門分野（身体障害 発達障害、高齢障害領域）の評価、治療の復習と統合
11	〃	専門分野（精神障害領域）の評価、治療の復習と統合
12	〃	専門分野（精神障害領域）の評価、治療の復習と統合
13	〃	専門分野（精神障害領域）の評価、治療の復習と統合
14	〃	専門分野（精神障害領域）の評価、治療の復習と統合
15	〃	専門分野（精神障害領域）の評価、治療の復習と統合

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活》

科目名	行動科学				
担当者氏名	安永 明智				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

本講義は、人々の健康を支援していくために必要な行動科学の理論や対人援助のスキルについて理解を深めることを目的とする。人の行動の背景にある個人及び環境要因、健康支援に必要な理論やスキルについて学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

随時、紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 健康支援における行動科学の必要性を説明できる。
2. 行動科学の理論を列挙し、説明できる。
3. 健康支援において対人援助を円滑に進めていくために必要なコミュニケーション・スキルを説明できる。
4. 行動科学の理論を健康支援の現場に応用していく方法を説明できる。

《学生の留意点》

討論等を取り入れ、授業を進めていく。したがって積極的に授業に参加し、能動的に学んでいくことを望む。また与えられた課題について下調べをする等の事前準備をして授業に参加することを義務とする。

《成績評価の方法》

課題レポート(100%)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における人間環境学を習熟した講師による、実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	行動科学とはどのような学問か	健康支援に行動科学が必要とされる背景
2	行動科学の背景となる心理学の理論①	学習理論
3	行動科学の背景となる心理学の理論②	動機づけ理論
4	行動科学理論①	社会的認知理論
5	行動科学理論②	トランスセオレティカル・モデル
6	行動科学理論③	ソーシャル・マーケティング
7	行動科学理論④	プリシード・プロシードモデル
8	行動科学理論⑤	エコロジカル・アプローチ
9	対人援助のスキル①	対人コミュニケーションの基礎
10	対人援助のスキル②	コミュニケーション・スキル
11	対人援助のスキル③	ヘルス・コミュニケーションとは何か
12	対人援助のスキル④	ヘルス・コミュニケーション：アサーション
13	対人援助のスキル⑤	ヘルス・コミュニケーション：動機づけ面接
14	健康支援の現場における行動科学の応用①	リハビリテーションを含む健康支援の現場で行動科学はどのように援用できるのか
15	健康支援の現場における行動科学の応用②	リハビリテーションを含む健康支援の現場で行動科学はどのように援用できるのか

《専門分野 地域作業療法学》

科目名	社会福祉学				
担当者氏名	川股 典子				
授業方法	講義	単位・回	1単位・10回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

心身障害や高齢などに起因する生活上の困難に対応するため
に、社会福祉全般の現状、高齢者福祉、障害者福祉、介護保険
制度、社会保障制度について学ぶ。

《テキスト》

特に定めない

《参考図書》

随時提示する

《目標行動(SBO)》

1. 社会福祉の概要を説明できる
2. リハビリテーションに関わる社会福祉（高齢者福祉、障害者福祉、介護保険制度、児童福祉）について説明できる

《学生の留意点》

積極的に質問し参加することを望む

《成績評価の方法》

課題レポート（100%）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における社会福祉士としての実務経験を活かした科目
としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	社会保障	社会保障の全体像
2	"	社会保障と社会福祉
3	老人福祉	高齢社会の背景
4	"	施設福祉・在宅福祉
5	"	介護保険制度
6	障害者福祉	「障害」について
7	"	各種サービスの概要
8	児童福祉	各種サービスの概要
9	地域福祉	各種サービスの概要
10	まとめ	まとめ
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-A				
担当者氏名	河野 崇				
授業方法	実習	単位・回	8単位・0回	開講年次・開講期	4年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

各領域の作業療法が実施できるようになるために、評価・治療の過程を理解する

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地に紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 対象者の評価を実施し、評価結果を整理できる
3. 対象者の治療計画を立案し、治療を実施できる
4. 必要に応じて再評価を実施し、作業療法の終了・継続・変更を判断できる
5. 記録・報告を行える
6. セミナーで振り返り、報告ができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導者による評価（7割）、実習後セミナー（3割）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務経験を活かし、実際の治療を学び実習科目としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 対象者決定	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定等の確認、実習スケジュールの確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する
2	初期評価	【2週目】評価の一部補助を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
3	初期評価	【3週目】1回の評価全体を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
4	問題点の抽出、目標設定 ・プログラム立案	【4週目】評価した内容から問題点の抽出、目標設定、プログラム立案を臨床実習指導者の助言をもとに実施できる。
5	治療実施	【5週目】積極的な助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
6	治療実施	【6週目】積極的もしくは最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
7	再評価	【7週目】最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する。再評価した内容から問題点の抽出、目標の再設定を臨床実習指導者の助言のもとに実施する。
8	まとめ	【8週目】
9	実習後セミナー	実習を振り返り、報告ができる
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-B				
担当者氏名	河野 崇				
授業方法	実習	単位・回	8単位・36回	開講年次・開講期	4年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

各領域の作業療法が実施できるようになるために、評価・治療の過程を理解する

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地に紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 対象者の評価を実施し、評価結果を整理できる
3. 対象者の治療計画を立案し、治療を実施できる
4. 必要に応じて再評価を実施し、作業療法の終了・継続・変更を判断できる
5. 記録・報告を行える
6. セミナーで振り返り、報告ができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導者による評価（7割）、実習後セミナー（3割）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務経験を活かし、実際の治療を学び実習科目としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 対象者決定	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定等の確認、実習スケジュールの確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する
2	初期評価	【2週目】評価の一部補助を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
3	初期評価	【3週目】1回の評価全体を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
4	問題点の抽出、目標設定 ・プログラム立案	【4週目】評価した内容から問題点の抽出、目標設定、プログラム立案を臨床実習指導者の助言をもとに実施できる。
5	治療実施	【5週目】積極的な助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
6	治療実施	【6週目】積極的もしくは最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
7	再評価	【7週目】最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する。再評価した内容から問題点の抽出、目標の再設定を臨床実習指導者の助言のもとに実施する。
8	まとめ	【8週目】
9	実習後セミナー	実習を振り返り、報告ができる
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-C				
担当者氏名	河野 崇				
授業方法	実習	単位・回	8単位・0回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

各領域の作業療法が実施できるようになるために、評価・治療の過程を理解する

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地に紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 職業人として適切な態度や行動をとることができる
2. 対象者の評価を実施し、評価結果を整理できる
3. 対象者の治療計画を立案し、治療を実施できる
4. 必要に応じて再評価を実施し、作業療法の終了・継続・変更を判断できる
5. 記録・報告を行える
6. セミナーで振り返り、報告ができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導者による評価（7割）、実習後セミナー（3割）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務経験を活かし、実際の治療を学び実習科目としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 対象者決定	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定等の確認、実習スケジュールの確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する
2	初期評価	【2週目】評価の一部補助を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
3	初期評価	【3週目】1回の評価全体を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
4	問題点の抽出、目標設定 ・プログラム立案	【4週目】評価した内容から問題点の抽出、目標設定、プログラム立案を臨床実習指導者の助言をもとに実施できる。
5	治療実施	【5週目】積極的な助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
6	治療実施	【6週目】積極的もしくは最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
7	再評価	【7週目】最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する。再評価した内容から問題点の抽出、目標の再設定を臨床実習指導者の助言のもとに実施する。
8	まとめ	【8週目】
9	実習後セミナー	実習を振り返り、報告ができる
10		
11		
12		
13		
14		
15		